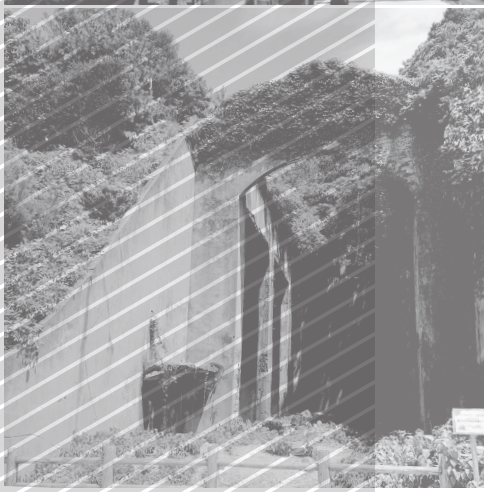
日韓聖公会青年セミナー
한일성공회 청년세미나



SEMINAR REPORT

2017

「核、武力、差別をこえて生命、平和、共生の道を
핵, 무력, 차별을 넘어 생명, 평화, 공생의 길을」

Korea & Japan Anglican Youth Seminar
in Hiroshima, Kure, Okunoshima
2017.8.3-7

目次

セミナー日程　세미나 일정・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
開会礼拝説教　게회예배・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
プログラム要約　프러그램 개요・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
参加者感想文　참가자 감상문・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
閉会礼拝説教　폐회예배 설교・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
おわりに　나가는 말・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

1. セミナー日程

8/3 Thu		
Time	Schedule	
15:00	受付	접수
15:30	開会礼拝（夕の祈り式文）	개회예배 （저녁기도 식문）
16:00	基調講演：李鐘根氏	기조강연 ：이종근 님
18:30	夕食	석식
19:30	オリエンテーション	오리엔테이션
20:00	分かち合い①	나눔-1
21:00	コンプリン	취침전기도

8/4 Fri		
Time	Schedule	
7:30	呉出発（バス内で朝食をとる）	쿠레 출발 버스내 조식
9:10	忠海港到着	타다노우미 항구 도착
9:40	フェリー乗船　大久野島へ	페리 승선　　오쿠노 섬으로
10:10	平和学習（大久野島から平和と環境を考える会） ガイド：山内正之氏	평화학습 : 오쿠노섬에서 평화와 환경을 생각하는 모임에 야마우치 마사유키선생님
12:00-13:00	昼食	중식
13:00-14:20	平和学習	평화학습
14:56	フェリー乗船　大久野島港出発	페리승선 오쿠마섬 출발
15:10	忠海出発（呉バス）	버스로 타다노우미 출발
16:30	呉駅前下車　呉市内散策	쿠레역 하차 쿠레시내산책
19:00	両国青年の発題（場所：幼稚園ホール）	양국청년 발제 (장소: 유치원 홀)
20:30	分かち合い②	나눔-2
21:50	コンプリン	취침전 기도

8/5 Sat		
Time	Schedule	
6:30	宿舎出発	숙소출발
7:00	朝食	조식
7:56	呉出発	쿠레 출발

8:27	広島駅到着	히로시마 역 도착
9:30	碑巡り【原爆資料館集合】	위령비 순례【원폭자료관집합】
12:00	昼食：広島復活教会（日本聖公会神戸教区）	중식 : 히로시마부활교회 (일본성공회 코베교구)
12:45	被爆証言　講師：益田遥氏「私の8月6日ー母の被爆体験を伝えてー」	피폭증언 강사:마스다 하루카 씨 *[나의8월6일--어머니의 피폭증언을 전한다.]*
14:45	ブレーク	쉼
15:00	分かち合い	나눔
16:10	カトリック教会との合同平和行進	카톨릭교회와의 합동평화행진
17:30	カトリック教会との合同プログラム、祈りのつどい、平和行進など	카톨릭과의 합동프로그램, 기도모임, 평화행진 등
19:00	世界平和記念聖堂（カトリック幟町教会）、祈りのつどい	세계평화기념성당 (카톨릭 노보리쵸교회) 에서의 기도모임
20:00頃	解散 ※グループごとに行動、宿舎まで戻る	해산 ※그룹별 행동, 숙소까지 돌아간다

8/6 Sun		
Time	**Schedule**	
7:30	朝食	조식
8:15	原爆投下時間をおぼえて黙祷	원폭 투하시간을 기억해 묵도
8:43	呉出発	쿠레 출발
9:10	広島到着	히로시마 도착
10:30	広島原爆逝去者記念聖餐式 （場所：広島復活教会）	히로시마 피폭서거자 기념성찬식 (장소:히로시마 부활교회)
12:00	フリータイム **※各自16時までに呉信愛教会に集合**	자유시간 ※각자16시까지 쿠레 신아이교회 집합
16:00	分かち合い③	나눔-3
17:30	閉会礼拝	폐회예배
18:00	フェアエルパーティー	페어웰 파티

8/7 Mon		
Time	**Schedule**	
7:00	リムジンバス	리무진 버스
11:30	韓国出発	한국 출발

2.開会礼拝説教

2017年8月3日　呉信愛教会礼拝堂
司祭　越山　哲也

日韓聖公会青年セミナー開会礼拝メッセージ

キリストの平和が皆さんと共にありますように

第9回目となる日韓聖公会青年セミナーを今年は広島及び呉で開催出来ますことを神さまに感謝します。そして皆さんにお会い出来て嬉しいです。

日韓聖公会青年セミナーは「東アジアの平和」を常に意識したセミナーです。「8月6日」という日は日本人にはすぐわかると思います。韓国の皆さんにはもしかすると分からないかもしれません。世界で初めて原子爆弾が広島に投下された日です。

それでは、日本の皆さんにお尋ねします。「4月16日」に何が起きたか覚えていますか。

今年はイースターが4月16日でした。韓国の皆さんにとってみれば忘れられない日だと思います。それは2015年4月16日に客船セウォル号が沈没し、多くの若い命が犠牲となった日です。2015年に日本の仙台で開催された第7回日韓聖公会青年セミナーにおいて参加者によって作られたシンボルマークは、東日本大震災とセウォル号の犠牲者を忘れない、そしてセミナー開催中に空に現れた2本の虹をモチーフにしたものです。

このように考えてみると、私たちは自分に関係のないことはすぐに忘れてしまうのです。言い換えるならば人は自分の都合のいいように生きようとし、自己弁護もします。そして自分にとって都合の悪いことは隠したりする生き物なのです。このような自己優位性、差別意識、攻撃性を認めなければなりません。それを認めないと真の平和を求める者にはなれないと思います。そしてそれは神さまに背く生き方なのです。

東アジアの平和を日韓両国で考え、作りだしていこうとするときに大切なことは、「加害と被害」の両方の視点です。この視点に立つときに同じスタートラインに立てると思います。

日韓青年セミナーの参加者一人一人がそのことを深く覚えて、皆でキリストの平和に生きるものになりたいと思います。

2. 개회예배설교

2017년 8월 3일 쿠레 신아이 교회 예배당
司祭　越山　哲也(코시야마 테쯔야 사제)

한일성공회 청년세미나 개회예배 멧세지

그리스도의 평화가 여러분과 함께 하시기를 기도합니다.
9회째가 되는 한일성공회 청년세미나를 올해 히로시마 및 쿠레에서 개최할수 있게 된 것을 하느님께 감사합니다. 그리고 여러분을 만나게 되서 매우 기쁩니다.
한일성공회 청년세미나는 항상 [동아시아의 평화]를 의식하는 세미나입니다. 8월 6일이라는 날의 의미를 일본인은 금방 알 수 있을것입니다. 한국의 여러분들은 혹시 모를 수도 있습니다. 세계에서 처음으로 원자폭탄이 히로시마에 투하된 날입니다.
그렇다면 일본분들에게 묻겠습니다. [4월 16일]에 어떤 일이 있었는지 알고계십니까?올해는 부활절이 4월 16일이었습니다. 한국분들에게는 결코 잊을 수 없는 날이라고 생각합니다. 그것은 2015년 4월 16일에 여객선 세월호가 침몰하여, 많은 젊은 생명들이 희생된 날입니다. 2015년에 일본의 센다이에서 개최된 제7회 한일성공회 세미나에서 참가자들에 의해 만들어진 심볼마크는, 동일본 대재해와 세월호 희생자를 잊지 말자는 의미, 그리고 세미나 개최중에 하늘에 나타난 두개의 쌍무지개를 모티브로 만든 것입니다.
그렇게 생각해 보면, 우리들은 자신에게 관계가 없는 것은 금방 잊어버립니다. 말을 바꾸어보면 인간은 자신에게 유리하게만 살아가려고 하며, 자기변호를 합니다. 그리고 자기에게 불리한 것은 숨기려고 하는 생물입니다. 먼저 이러한 자기우위성, 차별의식, 공격성을 가지고 있음을 인정하지 않으면 안됩니다. 그것을 인정하지 않으면 진정한 평화를 구하는 자가 될수 없습니다. 그리고 그것은 하느님께 등을 돌리는 삶입니다.
동아시아의 평화를 한일양국이 고민하며, 만들어가고자 할때 중요한 것은, [가해와 피해] 양쪽의 시점입니다. 이 시점을 갖을때 비로소 같은 스타트 라인에 설수 있는것이라고 생각합니다.

한일 청년 세미나의 참가자 한사람 한사람이 그것을 깊이 기억하며, 모두가 그리스도의 평화로 살아갈 수 있기를 바랍니다.

3.　プログラム要約

①　【2017年8月3日基調講演：李鍾根氏講演内容】

李鍾根氏の両親は朝鮮から職を求めて訪日し、1928年に島根県で彼は生まれた。彼らは在日朝鮮人として日本人から疎まれ、差別のない人里離れた場所を求めて居住地を転々とした。広島県の坂村（現在の坂町）に落ち着き、国民学校高等科を卒業後に彼は憧れの国鉄に就職したが、親にも内緒で国籍を偽証し、「江川政市」という通称を用い日本人として雇用者名簿に登録していた。職場は広島市から離れた場所にあり、8月6日は機関車から降りて歩いて職場に向かう途中に彼は被爆した。その熱により全身に火傷を負い、首にできたケロイドを毎日母親が治療してくれたが、ある日息子の病状を見かねて、その赤チンを塗りながら「死になさい、死になさい、死んだほうがマシだ」と言われたことが、とても悲しかったという。なんとか回復し、職場に復帰するも戸籍謄本の提出を求められ、国鉄は辞めるしかなかった。その後も就職口を探したが、行く先々で戸籍謄本が求められ、日本での再就職はあきらめて韓国に渡った。初めて釜山の山を見たとき、これが故郷かと涙があふれてきたという。自分は韓国人なのだと、それでも日本人でありたかったと彼は述べていた。その後、ピースボート（peace　boat)というプログラムに参加し、核と戦争による被害地を巡った。自身の経験も踏まえ、戦争、核の廃絶の思いを強めて今日の講演活動を続けている。

②　　【2017年8月4日大久野島訪問：案内人山内正之氏】

大久野島は、今でこそ「うさぎの島」として有名だが、72年前の第二次世界大戦当時、この島では大量の毒ガスが製造されていた。毒ガスは世界条約で製造・使用が禁止されている兵器である。その事を知った上で当時の日本兵は毒ガスを製造し、中国やアジアの様々な国々を侵略するために毒ガスを密かに製造していた。中国で日本兵が毒ガスを使用した回数は2000回以上、被害にあった人々は9万人以上に及ぶ。一度でも兵器として使用すれば条約に違反するものを日本は何度も使い続けていたのである。毒ガスの製造が知られないために日本兵は様々な方法で隠蔽を行った。大久野島は一時期日本の地図からもその

姿を消し、その実態が世間に知られることはなかった。大久野島で造られていた毒ガスは『イペリット』、『ルイサイト』、『青酸ガス』、『くしゃみ性ガス』、『催涙ガス』の全5種類。特に『イペリット』、『ルイサイト』は、液体が一滴でも人体に付着すれば体に異常をきたす猛毒である。使用された国の人はもちろん、造っている人々にも毒ガスの被害は及び、完全防具で作業をしていても防護服の隙間から毒ガスは少しずつ侵入し、体を蝕んでいった。当時大久野島で働いていた人たちは、次第に免疫力が低下し病に苦しんだという。毒ガスを作った側、兵器として使用された側双方に被害はあったが、日本は頑なにその真実を明らかにしようとはせず、あまつさえ戦争が終結した後大久野島や中国に毒ガスの詰まった容器を埋め、自分たちがしてきたことがばれないようにしたのである。今現在、中国で毒ガスの容器が埋められた地域ではその毒が漏れ出し地域に被害を与えている。毒ガスの問題は、決して過去のものではないとガイドをしてくださった山内さんは語った。日本は戦争の被害者として広島・長崎の原爆、沖縄戦の悲惨さを訴え続けているが、自分たちが行った非道な事実についての加害という側面については明らかにしようとはしない。本当に平和を訴えるのであれば、大久野島における歴史的事実に目を向け、謝罪していく必要があるのではないだろうか。

③　【2017年8月6日広島原爆逝去者記念聖餐式説教：神戸教区主教被選者　小林尚明司祭】

ただ今、朗読された今日の福音書からお話をします。私たちが聖書の箇所を深く理解しようと思えば、その箇所がどういう文脈に置かれているか、ということに注意を払わねばなりません。今日の福音書の直前に、イエスが弟子たちに、初めて受難予告をされた所があります。「9:22　人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日目に復活することになっている。」と教えられています。弟子たちにとっては、理解できない言葉です。弟子たちも民衆と同じように、旧約聖書のダビデ王のような地上に捜の国を打ち立てるメシアを期待していました。弟子たちは、イエスから「排斥され、殺される」救い主を教えられ、恐れと不安にとらわれていたはずです。そういう弟子たちを連れて、イエスは山に登ります。聖書では、山は神様が現れる特別な場所。日常生

活から切り離された神様に出会う場所です。イエスに連れられて、三人の「ペトロ、ヨハネ、ヤコブ」が山に登ります。弟子たちは「ひどく眠かった」と書いてありますから、もしかしたら、祈っておられるイエスから少し離れたところで、居眠りをしていたのかもしれません。ところが、祈っているイエスが「顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた」と言います。そして弟子たちが、見ていますと「二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。」と言います。旧約聖書の律法の代表のモーセ、預言者の代表のエリヤが栄光に輝く姿で現れ、「イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期」「エクソドス」という言葉が使われています。単なる最後・死ではなく、聖書では、エクソドスは「出エジプト」を表しますから、「よりよい状態への出発〕です。それは天への凱旋も含まれていると思います。イエスからメシアの受難予告が示され、不安と恐れにとらわれた弟子たちにとっては、光輝くイエスこそ、自分たちの救い主と確信を与えられた出来事と思います。しかし、その二人がイエスから離れようとしたとき、と言います。光り輝く神様の世界が消え去る時がきたのです。その素晴らしい輝きを自分の手にとどめておきたい、その素晴らしさの中にいたい、という思いが、ペトロが「仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです」と提案しますが、そんな人間的な希望は、父なる神様によって、雲によってかき消され、声が聞こえてきました。「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」という声です。イエス様は神様の独り子である、ということ。そして私たちは、イエス様に聞くことが、父なる神様の求めておられることだ、というのです。このイエス様の変容の出来事は、受難予告におびえる弟子たちに、自分たちが聞き従わなければならない方こそ、イエス様なのだ、ということを教えた出来事でした。弟子たちにとっては、イエスの受難ということは、理解も信じることも出来ないことですが、聞き従う救い主はイエス様なのだ、という確信を与えた出来事です。さて今年の広島平和礼拝に集った私たちも、今日の礼拝で聞かなければならない言葉は、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」です。私たちは、イエス様から何を聞かねばならないでしょうか。今日の日曜日(青年活動のための日)の為に、日本聖公会管区事務所がポスターを作ってくれています。そこには「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる(マタイ5:9)」と書かれています。山上の説教・垂訓の最初に語られたイエスの言葉です。平和を祈る人ではありません。平和を願う人でもありません。平和を実現する人が、神の子と呼ばれるのです。平和を作り出すことが、皆さんに期待されているのです。

広島平和礼拝の起こりを皆さん、ことに広島以外から来られた方にお話ししたい。もう13年も前のことです。2004年の6月に沖縄週間の研修が沖縄でありました。私も神戸教区の代表として参加していました。今は沖縄教区の主教になられている上原榮正司祭が私に言いました「小林先生も大変なことですね。平和のことをするのに、沖縄まで来なくても。広島ですることがあるのではないですか」と言ってくれました。勿論本土の人が沖縄の苦しい状況を見て、学んでくれることを上原司祭は、喜んでいました。遠い沖縄までわざわざ来てくれ

た、という感謝もあったでしょう。しかし「平和のことをするのに沖縄までくる必要があるのか」という問い。「広島で何かすることがあるのではないか」という問い。この問いを、私は広島に持ち帰り、一年間自分も原爆のことを学び、準備して2005年が広島被爆60年でした。そこから広島平和礼拝をスタートしました。そして日本聖公会の中で大きな行事となりました。まるで、先週の日曜日に読んだ「天の国は、からし種に似ている」のみ言葉のようなものです。私は上原司祭の言葉を神様からの言葉として、聞き、従っただけです。そこで皆さんにもお話ししたい。遠く広島まで来てくださって、原爆のこと、戦争のことを学んでいただき、うれしく思います。しかし、平和のことをするために、わざわざ広島まで来る必要があるのですか。皆さんの住んでいる場所で、平和を実現する人になっていただきたい。

そのためには、皆さんはイエスから聞かなければなりません。どうやって神様の声を聞くのか?　導きを発見するのかです。キリスト教の入門コースに、「アルファー・コース」というのがあります。アルファー、A、ですね。英国聖公会の教会で始まりました。
15単元から出来ていまして、1単元が約40分のビデオからなっています。キリスト教とは、とか。聖書とは、イエスとは、1回見たらそれでいいというのではなくて、いかに生活の中にキリスト教を入れていくか、実際の生活の指導なのですが、その中で、第七単元が「神の導きとは」というもので実に具体的に書いてあります。神様の導き、イエス様の語り掛けを聞くという事。その中から二つの方法を話します。

第一は、聖書のみ言葉によって、神様が私たちを導いてくださるということ。実例ですが、ある人が「今の私に一番ふさわしいみ言葉を与えてください」と祈って聖書を開けますと、マタイ27:5「ユダは、首を吊って死んだ。」と出た、そんなバカな!と思ってもう一度祈って聖書を開きますと今度はルカの10:37「行って、あなたも同じようにしなさい。』そんなバカな!自殺をせよというのかと思ってもう一度聖書を開きますと、ヨハネ13:27「しようとしていることを、今すぐ、しなさい」が出た。それが神様の導きではないでしょう。そうではなく聖書を毎日読んでいて、このみ言葉は、今の私のために書かれたものだ、とか、　一つのみ言葉が浮き出してくる、という体験なんですね。その時、初めて聖書を通して神様の導き・語りかけが分かる、ということが理解できるのです。そういう御言葉が与えられて、一日を過ごしますと、実に神様が共にいてくださるという喜びの中に一日を過ごすことが出来ます。「はっとさせられる」こうした聖書からのイエス様の呼びかけがあります。

二つ目は、「お祈り」ということです。お祈りの中で神様の導きを感じる。これも実例として書いてあることですが、例えば病院に皆さんが行ったとしませんか。そこでお医者さんに「先生、沢山悪いところがあるのです。足は水虫にやられ、痔にもなっていて、目も痒いし、インフルエンザの予防接種もしてほしい、腰がひどく痛むし、肩もこっている。どうしたらいいですか」と言った後、時計を見まして「あら大変、もうこんな時間になっている。聞いてくださってありがとう」と言ったとしませんか。お医者さんは「ちょっと待ちなさい。あなたは言いたいことだけ言って、わたしの言うことを聞こうとしないのですが」と言うで

しょう。お祈りも同じ、私たちがああしてください、こうしてください、と祈ってもそれに対して神様が答えて下さるのを持っている。待つ時間が必要です。礼拝堂に来て、チョット祈ったぐらいでは神様のお答え。導きは分かりません。祈りの中で待っている、そしてふと「ある思いが浮かんでくる」そういう体験です。そのためには、例えば聖書を読み、祈りをして待つ　5（読む），2（祈る），3（待つ）分の10分ぐらいが必要でしょう。そして心に浮かんだ、与えられたものも、それが神様からのものかどうか判断しなければならない。その答は、愛をはぐくむものですか？隣人を傷つけない？強め、励まし、慰め、神様の平安が心に広がりますか？という風に、判断しなければならない。そうした神様からの語りかけを聞いて、実践する。平和を実現する神の子、となっていただきたい。もしかしたら、アルファーコースから、始めてみられたらいいかもしれませんね。

今日の聖書の箇所を通して、父なる神様は、イエスに聞きなさい、と言われている。それはみんなに語ってくださる、ということが前提にあります。その語りかけを聞いて、進んでいく。神様の祝福をお祈りいたします。

3.　프로그램 요약

①　【2017년 8월 3일 기조강연 : 李鍾根이종근 씨 강연내용】

이종근 씨의 양친은 한반도에서 일을 찾아 일본에 건너왔다. 그리고, 1928년 시마네현에서 그가 태어났다. 그들은 재일조선인으로 일본인에 의해 소외당했고, 차별 없는 곳, 사람들과 떨어진 곳을 찾아 여기 저기를 떠돌았습니다. 히로시마현의 사카무라에 정착해서, 국민학교 고등과 졸업후에 그는 동경하던 국철(JR의 전신)에 취직했으나, 부모에게도 말하지 않은체 국적을 위증하여, 「江川政市 (에가와 마사이찌) 」라는 통칭을 사용하며 일본인으로써 고용자 명부에 등록했다. 직장이 히로시마시에서 떨어진 곳에 있어서 8월 6일은 기관차에서 내려서 직장까지 걸어가는 도중 그는 피폭을 당한다. 그 열에 의해서 화상을 입고, 목에 생긴 살이 녹아내리는 상처를 매일 모친이 치료했지만, 어느 날 아들의 병증을 더이상 보기 힘들어, 빨간약을 바르면서 [차라리 죽어라. 죽는게 낫다]라는 말을 했고, 그 말을 듣는 것이 매우 슬펐다고 한다. 조금씩 회복되어 직장에 복귀해도 호적등본 제출을 요구받아, 국철을 그만둘수 밖에 없었다. 그 후에도 취직

자리를 알아봤지만, 호적제출이 필수라 일본에서의 재취직을 포기하고 한국에 갔다. 처음으로 부산의 산을 봤을때 이곳이 고향이구나 하는 마음에 눈물이 멈추지 않았다고 한다. 자신은 한국인이다라고, 그렇지만 일본인인체로 있고싶은 마음도 있었다고 그는 말했다. 그 후, 피스보트 (peace boat)라는 프로그램에 참가하여, 핵과 전쟁에 의한 피해지를 돌았다. 자신의 경험을 발판으로 전쟁, 핵 폐기의 뜻을 굳히고 금일의 강연활동을 계속 이어가고있다.

② 【2017년8월4일 오쿠노섬 방문 : 안내인山内正之(야마우찌 마사유끼)씨】

오쿠노섬은, 지금은 「토끼들의 섬」이라 하여 유명하지만, 72년 전의 제2차 세계대전 당시, 이 섬에서는 대량의 독가스가 제조되고 있었다. 독가스는 세계조약에서 제조, 사용이 금지된 병기이다. 그것을 알면서도 (조약에 서명을 했으면서도) 당시 일본군은 중국과 아시아 각국을 침략하기 위해 비밀리에 독가스를 제조하였다. 일본군이 중국에서 독가스를 사용한 횟수는 2000회 이상, 피해를 입은 사람들은 9만명 이상에 이른다. 한번이라도 병기로써 사용되면 조약에 위반되는 것임에도 일본은 몇번이고 계속해서 사용했던 것이다. 독가스 제조 사실이 알려지지 않게 하기 위해 일본군은 여러가지 방법으로 은폐했다. 오쿠노섬은 한때 일본 지도로부터도 그 자취가 지워져, 그 실태가 세계에 알려지지 않았다. 오쿠노섬에서 만들어진 독가스는 [이페리트], [루이사이트], [청산가스], [기침성 가스], [췌루가스] 전 5종류. 특히[이페리트], [루이사이트]는, 액체 한 방울이라도 몸에 닿게 되면 극심한 이상을 불러오는 맹독이다. 사용된 나라 사람들은 물론 만드는 사람도 독가스 피해를 입게 되며, 완전 방호구를 착용해도 틈새로 독가스가 조금씩 침투해 신체를 상하게 한다. 당시 오쿠노섬에서 일하던 사람들은 점차로 면역력이 저하되어 병으로 고통받았다고 한다. 독가스를 만든 쪽이나, 병기로써 사용당한 쪽이나 양쪽에 피해가 있었으나, 일본은 완강히 그 진실을 밝히려고 하지 않고, 게다가 전쟁이 종결된 후 오쿠노섬과 중국에 독가스가 들어있는 용기를 묻고, 자기들이 한것이 알려지지 않도록 했다. 현재, 중국에서 독가스 용기가 묻힌 지역에서는 독가스가 유출되어 피해를 주고있다. 독가스 문제는

결코 과거의 일이 아니라고 가이드를 해주신 야마우찌 씨는 말했다. 일본은 전쟁피해자로써 히로시마, 나가사키의 원폭, 오끼나와 전쟁의 비참함을 계속 주장하고 있지만, 자신들이 저지른 비도덕적인 사실에 대해서는 가해라는 측면에서 밝히려고 하지 않는다. 진정으로 평화를 주장하고자 한다면, 오쿠노섬에 있어서의 역사적 사실을 외면하지 말고, 사죄해야 할 필요가 있지 않을까 생각한다.

③ 【2017년 8월 6일 히로시마 원폭 서거자 기념성찬식 설교 : 코베교구 주교피선자 小林尚明 司祭 코바야시 나오아끼 사제】

방금 낭독된, 오늘 복음서를 통해 말씀드립니다. 우리들이 성경말씀을 깊이 이해하려면, 그 부분이 어떤 문맥에서 쓰여졌는가 신경써서 읽어야 합니다. 오늘 복음서 직전에, 예수가 제자들에게 처음으로 수난예고를 하신 부분이 있습니다. [루카9:22 사람의 아들은 반드시 고난을 겪고 원로들과 대사제들과 율법학자들에게 배척을 받아 죽었다가 사흘 만에 다시 살아날 것이다.] 라고 말씀하고 계십니다. 제자들에게 있어서는 이해 할 수 없는 말이었습니다. 제자들도 민중과 같이 구약성서의 다윗왕 같은 이땅에 搜の 나라를 세울 메시아를 기대하고 있었습니다. 제자들은 예수로부터 [배척받고 죽임당하는] 구세주에 대해 이야기를 듣고 두려움과 불안에 떨었을 것입니다. 그런 제자들을 데리고 예수는 산에 올라갔습니다. 성서에서 산은 하느님이 현존하시는 특별한 장소이고 일상 생활로부터 떨어져 하느님을 만나는 장소입니다. 예수님과 함께 세명 [베드로, 요한, 야고보]가 산에 올랐습니다. 제자들은 [매우 졸렸다고] 했으니, 어쩌면, 기도하시던 예수로부터 조금 떨어진 곳에서 졸고 있었을 것입니다. 그러던 중 기도하시던 예수가 [얼굴의 모습이 변하여 새하얗게 빛났다]고 되어있습니다. 그리고 제자들이 보고있으니 [두사람이 예수와 함께 이야기를 하고 있었다]고 합니다. 그들은 모세와 엘리야이며, 그 둘은 영광에 쌓여 나타나, 예수가 예루살렘에서 이루시고자 하는 마지막에 대해서 이야기했다.]고 되어있습니다. 구약성서 율법의 대표인 모세, 예언자의 대표인 엘리야가 영광중에 빛나는 모습으로 나타나 [예수가 예루살렘에서 이루시고자 하는 마지막]에 대해서 말합니다. 여기에 [엑소도스]라는 말이 사용되고 있습니다. 단순히 최후, 죽음이 아니라, 성서에서의 엑소도스는 [출애굽] 을 의미하기에 [조금 더 좋은 상태로의 출발]을 말합니다. 그것은 개선장군으로써 하늘로 회귀하는 것도 포함되 있다고 생각합니다. 예수로부터 수난예고가 선포되어 불안과 두려움 가운데 있던 제자들에게 있어서는 빛나는 예수야말로 자신들의 구세주라는 확신을 갖게한 사건이었을것입니다. 그러나 [그 두명이 예수로부터 떠나려고 할 때, 즉, 찬란하게 빛나는 하느님의 세계가 사

라지는 때가 온 것입니다. 그 찬란함을 자신의 손에서 떠나보내고 싶지 않다는, 그 찬란함 안에 있고 싶다는 생각에, 베드로는 [초막 세채를 지읍시다. 하나는 예수님 당신을 위해, 하나는 모세, 하나는 엘리야를 위해서...] 라고 제안합니다. 그러한 인간적인 희망은, 성부 하느님에 의해, 구름과 함께 거둬지고 [이는 내 아들 내가 택한 아들이니 그의 말을 들어라] 라는 음성이 들려왔습니다. 예수님은 하느님의 독생자라는 것, 그리고 우리들은 예수님께 듣는 것이 성부 하느님의 뜻이라는 것입니다. 예수 변용의 뜻은 수난예고로 두려워하는 제자들에게, 자신들이 듣고 따라야 하는 분은 예수님이시라는 것을 가르쳐 주신 사건이었습니다. 제자들에게 있어서, 예수의 수난은 이해할 수도 없고 믿을 수도 없는 것입니다만, 듣고 따를 구세주는 예수 그리스도라는 확신을 준 사건이었습니다.

올해의 히로시마 평화예배에 모인 우리들도, 오늘의 예배에서 들어야 할 말은 [이는 내 아들 내가 택한 아들이니 그의 말을 들어라] 입니다. 우리들은 예수님으로부터 어떤 이야기를 들어야만 할까요. 오늘 일요일 (청년활동을 위해 기도하는 날)을 위해, 일본성공회 관구사무소가 포스터를 만들어 주셨습니다. 거기에는 [평화를 실현하는 사람은 행복하다. 그들은 하느님의 자녀라 불릴것이다.] (마태5:9)라고 쓰여있습니다. 산상설교, 수훈의 맨처음 쓰여진 예수님의 말씀입니다. 평화를 기도하는 사람이 아닙니다. 평화를 바라는 사람도 아닙니다. 평화를 실현하는 사람이, 하느님의 자녀라 불리게 되는 것입니다. 하느님께서는 여러분이 평화를 만들어내는 것을 기대하고 계십니다.

히로시마 밖에서 오신 분들을 위해, 히로시마 평화예배가 어떻게 시작되었는지를, 말씀드리겠습니다. 벌써 13년도 더 지났습니다만, 2004년 6월에 오끼나와에서 오끼나와 주간 연수가 열렸습니다. 저도 코베교구의 대표로써 참가했습니다. 지금은 오끼나와 교구의 주교가 되신 上原榮正司祭 우에하라 에이쇼 사제가 제게 말했습니다. [코바야시 신부님도 많이 힘드시겠네요. 평화를 이루는데, 오끼나와까지 오지않아도 될텐데.... 히로시마에서 할 수 있는 일이 있지 않을가요] 라고 말씀하셨습니다. 물론 본토 사람이 오끼나와의 고통스러운 상황을 보고 배우는 것을 우에하라 신부님은 기뻐하셨습니다. 먼 오끼나와까지 일부러 와주었다 라는 감사의 마음도 있었을것입니다. 그러나 [평화를 이루는데 오끼나와까지 올 필요가 있는가] 라는 질문. [히로시마에서 뭔가 할 일이 있지 않는가] 라는 질문. 저는 이 질문을 히로시마에 가지고 와서, 1년간 자신도 원폭에 대해 배우고, 준비해서 히로시마 피폭 60년이 되는 2005년부터, 히로시마 평화예배를 스타트 했습니다. 그리고 히로시마 평화예배는 일본성공회 안에서 큰 행사가 되었습니다. 마치 지난주 일요일에 읽은 [하늘나라는 겨자씨와 같다]라는 말씀과도 같습니다. 저는 우에하라 신부님의 말씀을 하느님의 말씀으로 듣고 따랐을 뿐입니다. 여기서 여러분들께도 말씀드리고 싶습니다. 먼 히로시마까지 와주시고, 원폭이라든지, 전쟁에 대해 배워주셔서 기쁘게 생각합니다. 그러나 평화를 이루기 위해서 일부러 히로시마까지 올 필요가 있습니까. 여러분이 살고 계시는 장소에서 평화를 실현하는 사람이 되 주시길 바랍니다. 이것을 위해서는, 여러분은 예수님께 들어야 합니다. 어떻게 하느님의 음성을 들을까? 인도하심을 발견할 수 있을까하는 것입니다. 그리스도교의 입문코스에 [알파코스]라는 것이 있습니다. 알파는 영국성공회에

서 시작되었습니다. 15단원으로 되어있으며 1단원이 약 40분짜리 비디오로 되어 있습니다. 그리스도교란? 이라든지, 성경이란?, 예수란? 등의 한번만 보면 그걸로 됐어라는 식이 아니라, 얼마나 생활속에서 그리스도교를 반영하며 살아갈까, 알파는 실제의 생활을 인도하는 것입니다만, 그 안의 제7단원이 [하느님의 인도하심]인데 매우 구체적으로 쓰여있습니다. 하느님의 인도하심, 예수님의 말씀하시는 것을 듣는 것. 그 중의 두가지 방법을 말씀드립니다.

하나는, 성경의 말씀에 의해, 하느님이 우리들을 인도해주신다는 것. 예를 들면, 어떤 사람이 [지금의 나에게 가장 알맞는 말씀을 주세요]라고 기도한 후 성경을 폈는데, 마태27:5 [유다는 목을 메고 죽었다]라고 나왔다. 이건 아니라고 생각해서 한번 더 기도한 후 성경을 폈는데 이번엔 루카10:37 [가서 너도 그렇게 하여라]. 자살을 하라니 말도 안되라고 생각하여 한번 더 성경을 폈습니다. 요한13:27 [하고자 하는 일을 지금 바로 하라]가 나왔습니다. 물론 이것은 하느님의 인도하심이 아닙니다. 그런것이 아니라 성경을 매일 읽고 그 말씀은 지금의 나를 위해 쓰여진 것이다 라든가, 한가지의 말씀이 마음에 떠오른다던가 하는 체험입니다. 그때, 처음으로 성경을 통해서 하느님의 인도하심, 말씀하심을 알 수 있는..., 그런 것이 이해가 되기 시작합니다. 그러한 말씀이 주어져서, 하루를 지내보면, 실로 하느님이 함께 해 주시는 기쁨 중에 하루를 지낼 수가 있는것입니다. [무의식중에 불연간 깨닫는] 이런 성경말씀에 예수님의 부르심이 있는것입니다.

두번째는, [기도]입니다. 기도 안에 하느님의 인도하심을 느끼는 것입니다. 이것도 예가 소개되고 있습니다. 여러분들이 병원에 갔다고 합시다. 거기서 의사에게 [선생님, 나는 많은 곳이 않좋습니다. 발은 무좀에 걸리고, 치질도 있고, 눈도 가렵고, 인플루엔자 예방접종도 부탁합니다. 허리도 많이 아프고, 어깨도 뭉칩니다. 어쩌면 좋죠?]라고 말한 후, 시계를 봤습니다. 그리고 [아이고 벌써 시간이 이렇게 됐네. 들어주셔서 고맙습니다.]라고 했답니다. 의사는 [좀, 기다리세요. 당신은 자기 할 말만 하고 내 말은 안듣습니까]라고 했죠. 기도도 이와 같습니다. 우리들이, 이렇게 해주세요. 저렇게 해주세요. 라고 기도하더라도 거기에 대해서 하느님이 응답해 주실것을 기다립니다. 기다림의 시간이 필요합니다. 예배당에 와서 잠깐 기도한 것으로 하느님의 응답, 인도하심을 알 수는 없습니다. 기도중에 기다림, 그리고 불연간 [어떤 생각이 떠오르는] 그런 체험입니다. 그것을 위해서는, 예를들면 성서를 읽고, 기도하고, 기다리는 5분(읽기), 2분(기도), 3분(기다림)의 10분 정도가 필요합니다. 그리고 마음에 떠오르는 것이 중요한데, 그 받은 것도 그것이 하느님께서 주신것인지 판단 해야만 합니다. 그 답은, 사랑을 키우는 것입니까? 이웃에게 상처를 주는 것은 아닌지? 강건히 해주고, 격려하며, 위로하고, 하느님의 평안이 마음 곳곳에 전해집니까? 라는 식으로 판단해야 합니다. 하느님으로부터의 그런 음성을 듣고, 실천하는.... 평화를 실현하는 하느님의 자녀가 되시길 바랍니다. 어쩌면 알파코스를 시작해 보시는 것도 좋을지 모르겠습니다.

오늘의 성서를 통해서 성부 하느님께서는, 예수에게 들으라고 말씀하고 계십니다. 그것은 우리 모두에게 말씀하시는 것이라는 것이 전제되고 있습니다. 그 음성을 듣고, 앞으로 나아가시길 바랍니다. 하느님의 축복을 기도합니다.

4. 参加者感想文

日本側参加者感想文

日韓聖公会青年セミナーを経て

松山マリ

先ず始めにこのセミナーを準備してくださったスタッフの先生方、関係者の方々、本当にありがとうございました。

今回私は7年振りにセミナーに参加することになり、全日程最後までついていけるか不安な気持ちで当日を迎えたのですが、そんな気持ちを忘れるくらい本当に早く時間が過ぎて行ったようです。この8月6日という特別なときに、初めて広島の地に立ち、様々な事を見聞きし感じ、本当に濃い、忘れられない時間を過ごせたのではないかと思います。

日韓両国それぞれさまざまな場所から神様に導かれて集まった仲間たちが、セミナーを終えてまたそれぞれの日常に戻ったわけですが、一緒に過ごして祈り、思いをシェアした仲間がいることを嬉しく、心強く思います。これからも、戦争で犠牲になったたくさんの生命、戦後の苦しい中必死で生きてきた人々、平和を築いて行こうと努力しているたくさんの人々の存在を忘れずに過ごしていきたいなと改めて思います。

同じグループはもちろん、一緒のグループになれなかった参加者とも「あんなこと、こんなこともっと話したかったなぁ」と少し残念な気持ちもあるのですが、この先またどこかでみんなと再会できれば嬉しいです。

한일성공회 청년세미나를 마치며

松山マリ(마쯔야마 마리)

우선 이 세미나를 준비해주신 스텝, 교역자, 관계자 분들께 진심으로 감사드립니다.

저는 이번에 7년만에 세미나에 참가하게 되어, 모든 일정을 마지막까지 함께 할수 있을지 불안한 마음이 있었지만, 그런 마음들을 잊어버릴 정도로 빠르게 시간이 지나갔습니다.

이 8월 6일이라는 특별한 날에, 처음으로 히로시마 땅에 서서, 여러가지를 보고 듣고 느끼며, 진한, 잊을 수 없는 시간을 지냈습니다.

한일 양국 각각의 여러 장소에서 하느님께 불림받아 모인 동역자들이, 세미나를 마치고 각자의 일상으로 돌아갔는데, 함께 지내며 기도하고 생각들을 나눈 동역자가 있다는 것이 기쁘고 힘이 됩니다. 앞으로도 전쟁으로 희생당한 많은 생명, 전쟁의 고통 속에서 필사적으로 살아온 사람들, 평화를 이루어가고자 노력하는 많은 사람들의 존재를 잊지말고 지내야겠다고 다시한번 다짐합니다.

같은 그룹은 물론, 같은 그룹이 되지 못한 참가자들도 [이런 것 저런것, 더 많이 이야기 하고싶었는데…]라는 후회도 있지만, 가까운 미래에 어디선가 또 재회할수 있으면 좋겠다고 생각합니다.

未来

荒屋敷らら

今回のセミナーで知っていた事、知らなかった事の二つの事に触れることができて良かった。広島に行っている間はあんなに覚えていたのに帰ってきていろんな情報に触れることでだんだん薄れていく。忘れてはいないけれど、心の奥の奥の方へとしまわれていってしまう。でも、ふと思い出すことがある。日常の中に共通するものが存在するのか。感情が込み上げてくるときがある。人間は本当に残酷なもので実際にそうなってみないと分からない、そうなるまで考えられないというような部分を持っていると思う。だが、そうなった事がある人がその記憶、背景、見たものを辿って、掘り起こすことで明確に伝わるものがあると思う。話す人達はその事を思い出しながら話すのはとても辛い事だと思うが、確実に一つでも聞いている人達の心の中に確かに響くものがあると思う。その話を聞き、風化や歴史だけでは終わらせず今の全ての現状に危機感を持ってほしい。そうなった事を「悲しい出来事」でまとめてしまうのではなくこういう出来事が起こった事に根拠に今の現状、これからの未来について何を行なっていくべきなのか、どういう活動をしていったらいいのかと深く考えていくべきだと思う。

미래

荒屋敷らら(아라야시키 라라)

이번 세미나에서는 알고 있었던 것과 몰랐던 것 크게 이 두가지에 대해서 새로이 접하게 되어서 좋았다. 히로시마에 갔을때는 많은 것을 기억하고 있었으나 집에 돌아와서 여러가지 정보를 접하게 되면서 점점 기억이 흐려졌다. 잊은 것은 아니지만, 마음 속 깊은 곳에 그냥 잘 넣어둔체로 있었다. 하지만 무의식 가운데 문득 떠오를 때가 있다. 일상 중에 공통하는 것이 존재하는지, 감정이 북받쳐 오를 때가 있다. 인간은 참으로 잔혹한 존재로, 실제로 그런 상황에 처해보지 않으면 알수가 없다. 그리고 그렇게 되기 전까지는 생각하거나 판단하거나 할 수 없는 부분을 가지고 있다. 그러나 그렇게 된 경험이 있는 사람이 그 기억, 배경, 본것들을 되돌아 더듬어 파헤침으로 명확하게 전해지는 것이 있다고 생각한다. 전하는 사람으로써는 그것을 다시 기억해내며 이야기 하는 것이 매우 아픈 상처가 되겠지만, 듣는 사람들의 마음 속에 확실히 하나라도 울려오는 것이 있다고 생각한다. 그 이야기를 듣고, 역사라는 범주에서 어른들의 말을 무비판적으로 받아들이거나 하는것으로 끝내지 않고, 지금의 모든 현상에 위기감을 갖었으면 좋겠다. 그렇게 된 것을 단순히 [슬픈 일들] 로 정리해 버리는 것이 아니라, 그러한 일들이 일어난 근

거에 지금의 현상, 앞으로의 미래에 대해 무엇을 행해야 하는가, 어떤 활동을 해가면 좋을까 깊이 생각해야 한다고 생각한다.

日韓聖公会青年セミナーに参加しての感想

仲宗根　遼祐

私は今回の『日韓聖公会青年セミナー』に沖縄教区の人間として、また沖縄で生まれ育った者として、沖縄戦以外でも戦争について多くのことを学びたい。そして平和についてもっと深く学びたい、考えたいという気持ちで参加しました。沖縄戦については沢山のことは、知っていても広島の原爆について、大久野島で毒ガスが造られていた事について知らなかった私は、今回のセミナーを通し自分がいかに無知であったかを思い知りました。

大久野島で日本兵が毒ガスを製造し、それを隠していた。毒ガスを中国や他の国で使用し多くの命を奪っていた事、島で毒ガスを製造していた人々の健康に大きな障害をもたらした事。広島の原爆でも沢山の被害者が出て沢山の人が二度と原爆を使わないように、平和を訴えている事など、現地に行っていろいろ学び、そして見ることで戦争の悲惨さと平和への心からの訴えを感じました。

終戦から72年が経った今、当時を知る人が減っている中でどうやって次の世代に戦争の悲惨さを伝えていくのか。そして私たちクリスチャンは、戦争についてどう向き合っていくのか。今回のセミナーで平和について学んだ私は、その事に真剣に向き合っていく必要があると、改めて感じました。

한일성공회 청년세미나에 참가한 감상

仲宗根　遼祐(나까소네 료스케)

나는 이번 [한일성공회 청년세미나]에 오끼나와 교구 사람으로써, 그리고 오끼나와에서 태어나서 자란 사람으로써, 오끼나와 전쟁 이외에도 전쟁에 대해서 많은 것을 배우고 싶다는 마음과, 그리고 평화에 대해서도 더 깊이 배우고, 생각하기 위해 참가했습니다. 오끼나와 전쟁에 대해서는 많은 부분을 알고 있었어도 히로시마 원폭에 대해서, 오쿠노섬에서 독가스가 만들어지고 있었다는 것에 대해서는 몰랐던 나는, 이번 세미나를 통해서 나자신이 얼마나 무지했는지 알 수 있었습니다.

오쿠노섬에서 일본군이 독가스를 제조하고, 그것을 숨겨왔던 것. 독가스를 중국과 다른 나라에서 사용하여 많은 생명을 빼앗았던 것, 섬에서 그 독가스를 제조하던 사람들의 건강에 큰 장해를가져다준것. 히로시마 원폭으로도 많은 피해자가 나왔고 많은 사람이 다시는 원폭을 사용하지 않도록, 평화를 외치고 있는 것 등, 현지에 가서 여러가지를 배우고 봄으로 전쟁의 비참함과 평화를 향한 마음으로부터의 외침을 느꼈습니다.

전쟁으로부터 72년이 지난 지금, 당시를 아는 사람이 줄어가는 가운데 어떻게 하면 다음 세대에 전쟁의 비참함을 전해 갈수 있을까. 그리고 우리들 크리스찬은, 전쟁에 대해서 어떻게 대처

해 나가야 하는가. 이번 세미나에서 배운 나는, 그러한 것에 대해 진지하게 대처해야 할 필요가 있다고, 새롭게 마음을 갖었습니다.

未来への不安の中にあって

黒阪　帆

戦争を経験として語ることができない世代、宗教との関わりが浅くなる現代にあって、平和に対する倫理観はどこで養われるのだろうか。戦争への関心が薄れ、被爆者がいる時代の終わりが近づき、その倫理観さえも失われているのだとすれば、僕らの生きる社会が行き着く先はどこであろうか。戦争とは無意識の内に人々の生活が組み込まれてしまうものであることを、先人たちは伝えている。いつか戦争状態になったとき、果たして僕はそれを拒むことができるのだろうか。今を生きる人として戦争経験者が存在し、戦争によって人生を変えられた人が存在する。被害と加害の狭間で生まれた憎しみ、不安、罪の意識は、彼らなき世界でどのように考えられるべきなのだろう。セミナーの中で日本の罪を許すべきとの意見が述べられていた。過去をリセットして平和のために歩を合わせる、理想的だが人の感情はそんな簡単なものではないだろう、どこか煮え切れない思いで満たされる。彼らと同じ視点で平和は捉えられないけれども、当事者の感情を無視して平和は語ってはいけない、そんなことを考えた。歴史を無駄にせず、未来へと思いを馳せたい。気づきと、祈りの時を、主に感謝。

미래의 평안에 있어서

黒阪　帆(쿠로사카 와타루)

경험한 전쟁을 말하지 못하는 세대, 종교와의 관계가 옅어지는 현대에 있어서, 평화에 대한 윤리관은 어디에서 양육받을수 있는가. 전쟁에 대한 관심이 옅어지고, 피폭자가 존재하는 시대의 종료가 가까워오고, 그 윤리관 마저도 잃어가고 있다라고 한다면, 우리가 살아가는 사회가 도달하는 곳은 어디일까. 전쟁이라 함은 무의식 중에 사람들의 생활이 짜여져 버리는 것이라는 것을, 선인들은 전하고 있다. 언젠가 전쟁상태가 된다면, 과연 나는 그걸 거절할 수 있을까. 지금을 살아가는 사람으로써 전쟁경험자가 존재하고, 전쟁에 의해 인생이 바뀌어버린 사람들이 존재한다. 피해와 가해의 틈새에서 생겨난 증오, 불안, 죄의식은, 그들이 없는 세계에서 어떻게 생각되어져야 하는가. 세미나 가운데, 일본의 죄를 용서해야 한다는 의견이 발표되었다. 과거를 리셋하고 평화를 위해서 발을 맞추는, 이상적이지만 사람의 감정은 그렇게 간단하지는 않을 것이다. 어딘가 선을 그을 수 없는 애매한 생각들이 가득찬다. 그들과 같은 관점에서 평화를 촉진해갈수는 없지만, 당사자의 감정을 무시하고 평화를 논할수는 없다. 그런 것들을 생각했다. 역사를 헛되이 하지 않고, 미래에 대해 생각하고 싶다. 깨달음과 기도의 때를. 주님께 감사.

違いと痛みと共に歩むこと

松村　希

4回目の参加となる日韓青年セミナーでしたが、短くまとめるのが難しいほど、様々な刺激を受け、新たな気付きを得ました。過去の加害を認めないことがまた新たに現在・未来に被害を生み出すこと。「被害と加害」は自分の中で長く向き合うテーマになるであろうこと。命は平等であること。被害者を憶えて連帯し「生は続けなければならない」こと。

特に、韓国と日本から異なる背景を持つ青年たちと共に参加できたことに大きな意味を感じました。分かち合いでは、参加者たちから大切な言葉をたくさんもらいました。“一致・共感”とはそう簡単にできるものではないという再認識もありましたが、これは悲しいことではなく、それぞれ異なるものを持つ私たちが、違いや痛みを受け止めつつ一緒に歩もうとしていること、そこに希望を感じています。

また、今回は若い参加者が多く、未来の青年たちにとっても日韓青年セミナーが出会い・気づき・学びの場であり、平和の器としてさらに用いられるといいなぁ、と、年長者として感じていました。「平和を願う・祈る人々」ではなく、「実現する人々」となれるよう、共に歩んでいきたいと思います。

最後に、準備に関わられた全ての皆さん、私を送り出してくれた教区・教会・家族に感謝します。そして、最初から最後まで共にいてくださった神さまに感謝します。

다름과 아픔과 함께 걸어가는 것

松村　希(마쯔무라 노조미)

4번째 참가인 한일 청년 세미나였습니다만, 짧게 정리하는 것이 어려울 정도로 많은 자극을 받아 새로운 깨달음을 얻었습니다. 과거의 가해를 인정하지 않는 것이 또다시 현재, 미래에 피해를 주게 된다는 것. [피해와 가해]는 내 안에서 오랜동안 생각되어질 과제가 될 거라는 것. 생명은 평등하다는 것. 피해자를 기억하고 연대하는 [살아가는 것은 계속되어야 한다]라는 것.

특히, 한국과 일본의 다른 배경을 갖는 청년들과 함께 참가할수 있었다는 것에 큰 의미를 느꼈습니다. 나눔 때는, 참가자들로부터 중요한 말을 많이 들을 수 있었습니다. [일치, 공감]이라는 것은 그렇게 간단하게 이루어지는 것이 아니라는 것의 재인식도 있었고....

하지만, 이것은 슬픈 일이 아니라, 각자의 다름을 갖는 우리들이, 다른것과 아픔을 마음에 간직하며 함께 나아가고자 하는 것. 그곳에 희망을 느끼고 있습니다. 또한, 이번엔 젊은 참가자가 많았고, 미래의 청년들에 있어서도 한일청년세미나가 만남, 깨달음, 배움의 장이되어, 평화의 도구로써 더욱 더 사용되어지면 좋겠다고, 연장자로써 느꼈습니다. [평화를 원하는, 기도하는 사람들] 이 아니라, [실현하는 사람들]이 되도록, 함께 나아가기를 원합니다.

마지막으로, 준비에 힘을 보태주신 모든 분들, 저를 보내주신 교구, 교회, 가족에게 감사합니다. 그리고, 처음부터 끝까지 함께 해 주신 하느님께 감사합니다.

広島の原子爆弾について学んで

矢萩野愛

いままで間接的に色々な場所で広島に落ちた原子爆弾の悲惨さを知ってはいたものの、直接その場に行って、そしてさまざまな人の話を聞いて感じたことには、いままで感じてきたものとは全く意味合いの違う複雑な思いが僕の中に生まれました。それは、全く僕たちと変わらない人たちが原爆による激しい苦しみの中で、自分の人生を閉じなくてはならなかったということ。これは当たり前のことですが、このことに僕はいままでほとんど思い至っていませんでした。

韓国の同世代の人たちとの交流は、かけがえのない時間となりましたが、今回広島の原子爆弾について学んで持った疑問、そしてどのようにキリスト教の信仰からこの悲惨な悲劇に意味を見出すべきなのか、それは僕がこれからの時間をかけて考えなくてはいけない課題だと思います。

히로시마 원자폭탄에 대해서 배우고

矢萩野愛(야하기 노아)

지금까지 간접적으로 여러 장소에서 히로시마에 떨어진 원자폭탄의 비참함을 배워 알고는 있었지만, 직접 그 곳에 가서 그리고 여러 사람들의 이야기를 듣고 느낀 것은, 지금까지 느껴왔던 것들과는 전혀 의미가 다른 복잡한 생각이 내 안에 생겨났습니다. 그것은, 우리들과 전혀 다르지 않은 사람들이 원폭에 의해 심각한 고통 속에서, 자신의 인생을 닫을 수 밖에 없었다는 것. 이것은 당연한 것일수도 있지만, 지금까지의 나로써는 생각이 거기까지 미치지는 못했습니다. 한국의 동세대 사람들과의 교류는 어떤 걸로도 대신할수 없는 시간이었습니다만, 이번 히로시마 원폭에 대해서 배우고 갖게된 의문, 그리고 어떻게 그리스도교 신앙으로부터 이 비참한 비극에서 의미를 찾아야 하는가. 그것은 앞으로의 시간을 두고 내가 생각하지 않으면 않되는 과제라고 생각합니다.

求道、すでに道である

藤井里恵

いつか教科書で見た1945年8月6日のきのこ雲の写真。その白黒の写真からはわからなかったことを、このセミナーで知り、貴重な人生の財産となった。

とりわけ私が衝撃を受けたのは、戦時中日本に植民地として占領されていた韓国の方々が、今もなお深い悲しみの内に苦しんでいらっしゃることだ。日本が受けた戦争の被害にばかりに目を向けていた

自分の浅はかさを恥ずかしく思った。同時に、身の毛もよだつ様な恐怖を覚えた。日本の過ちなのに、私は全く知らなかったし、知ろうとすらしていなかったからだ。今この瞬間も、戦争の苦しみに喘ぐ方々が世界中にいらっしゃることを少しでも考えると、胸がぎゅうっと締め付けられる。とても痛い。苦しい。

私たち一人ひとりの行いは微力ではあっても、決して無力ではない。平和を願う心は世界中皆、変わらないはずだ。たくさんの人々が集まれば、大きな強い力になる。世界だってなんだって変えられる。なにより、ヒロシマの方々がそれを信じて、活動されているのをこの目で見た。

私はこれから神様の御心にかなう者となり、平和の実現に力を尽くすことを決めた。世界のどこかに苦しんでいる人がいる時、心の底から本当の笑顔になれるほど、神様は人間を強くお創りになられていないのだ。

길을 찾는 것, 이미 길이다

藤井里恵(후지이 리에)

언젠가 교과서에서 본 1945년 8월 6일의 버섯구름 사진. 그 흑백사진으로는 알 수 없었던 것을 이 세미나에서 알게 되었고, 인생의 귀중한 재산이 되었다.

특히 충격적이었던 것은, 전쟁 중 일본 식민지 점령을 당하고 있던 한국 분들이, 지금도 여전히 깊은 슬픔에 고통받고 계신 것이다. 일본이 당한 전쟁피해에만 관심을 갖었던 자신의 경솔함을 창피하게 생각했다. 동시에, 전신의 털이 주뼛 서는 공포를 느꼈다. 일본의 잘못이었건만, 나는 전혀 몰랐고, 알려고 조차도 하지 않았기 때문이다. 지금 이 순간도, 전쟁의 고통에 시달리는 분들이 세계중에 계시다는 것을 조금이라도 생각하면, 가슴이 압박되어 조여옴을 느낀다. 매우 아프고 고통스럽다.

우리들 한사람 한사람의 행함은 미력하지만, 결코 무력하지 않다. 평화를 바라는 마음은 세계의 모든 사람들에게 있어 다르지 않다. 많은 사람이 모이면, 크고 강한 힘이 된다. 전세계 뿐만 아니라 그 무엇이라도 변화시킬수 있다. 무엇보다도, 히로시마의 분들이 그것을 믿고 활동하시는 것을 이 눈으로 보았다.

나는 앞으로 하느님의 마음에 드는 자가 되어, 평화의 실현에 힘을 다할 것을 결심했다. 세계 어딘가에 고통받는 사람들이 있음에도, 마음 속 깊은 곳으로부터 진정한 미소가 피어날 수 있을 정도로 하느님은 인간을 강하게 창조하시지는 않았다.

日韓聖公会青年セミナーに参加して

大岡祐一朗

まず、初めにセミナーを準備して下さったスタッフの皆様、一緒に時間を過ごして下さった参加者の皆様、ありがとうございました。カムサハムニダ。

今回のセミナーを通して、過去の戦争という過ちや平和について気づきが得られました。目を背けがちだった過去の歴史の一部を知ることができました。

私は日頃生活している中で、「戦争」「平和」について考えている時間は正直多くありません。戦争や政治家の発言、日中韓の問題についてもなんとなく、記事を読み過ごしている程度です。「無関心」と言っても過言ではないでしょう。しかし、これからは少なくとも、毎年8月6日を今までとは違う意識で迎えられると思います。過去の出来事を忘れないように、今の気持ちを覚えていられるように。

また、昔、ある人が言った言葉を思い出しました。「平和の反対は暴力である」。この言葉の意味をもう一度、深く考えたいと思います。

한일성공회 청년세미나에 참가하고

大岡祐一朗(오오카 유이찌로)

우선, 세미나를 준비해주신 스텝 여러분, 함께 시간을 보내주신 참가자 여러분들, 감사합니다. (한국어 발음으로 표기)

이번 세미나를 통해서, 과거의 전쟁이라는 잘못과 평화에 대해서 깨달음을 얻을 수 있었습니다. 간단히 외면해 버리기 쉬운 과거 역사의 일부를 알 수 있었습니다.

저는 일상생활 속에서, [전쟁],[평화]에 대해서 생각하는 시간이 솔직히 많지 않습니다. 전쟁이라든지 정치가의 발언에 대해서 그리고 한중일 문제에 대해서도 겨우 기사를 읽는 정도입니다. [무관심]이라고 해도 과언이 아닐것입니다. 그러나, 앞으로는 적어도, 매년 8월 6일을 지금까지와는 다른 의미로 맞이 할 수 있을것 같습니다. 과거에 일어난 일을 잊지 않도록, 지금의 마음을 기억하도록 하겠습니다.

또한, 예전에 어떤 사람이 한 말이 생각납니다. [평화의 반대는 폭력이다.] 이 말의 의미를 다시 한번, 깊이 생각해보고자 합니다.

苦悩と希望を胸に

八束春香

日韓聖公会青年セミナーを通して、広島、そして共に築く平和は私にとって以前に増して重要な存在になった。それは、セミナーにおいて、多様な人々の声・姿を耳に、また目にし、それら一つひとつにアトラクトされたからだ。今までバラバラであったパズルのピースが繋がっていく、そのような感覚を覚えた。本報告では、特に私が心動かされた事柄を挙げる。まず、セミナーに向けて、また”20○○年○月○日”という今日(一日)に向けて、準備を重ね、働く青年や活動家の姿を間近で目撃したことを挙げる。広島・日本のミッション、韓国のミッション、そして世界のミッションの為に自らの心と体を差し出し、互いに持ち寄る姿があった。自らの原体験から冷静かつ大胆に語ってくださる方や共にそれを聞く友の姿勢に触れた。

次に、様々な背景をもつ友と共に平和・いのちについて考え、祈り、時間を共有できた恵みを挙げる。平和をseekする友が今年も集められ、共に祈ることが許されたことに喜びを覚

えた。一方、私は日々の中でどれだけ世界に心を向けているだろうか。この希望と悔しさを胸に、私は自らのミッションと向き合う。最後に、迎えて下さった聖公会スタッフと、愛に満ちた主に感謝して報告とする。

고뇌와 희망을 가슴에
八束春香(야쯔즈카 하루까)

한일성공회 청년세미나를 통해서, 히로시마, 그리고 함께 만들어가는 평화는 나에게 있어 이전 보다 더 중요한 존재가 되었다. 그것은, 세미나에서 사람들의 다양한 목소리와 자세를 듣고 보면서, 그것 하나하나에 흥미를 갖게 되었기 때문이다. 지금까지 흩어져 있던 퍼즐조각들이 연결되는, 그런 느낌을 받았다. 이 보고에서는, 특히 내 마음이 움직인 부분을 소개하겠다. 우선 "이천몇년 몇월 몇일" 이라는 오늘(하루)을 위해서, 성실히 준비하면서, 활동하는 청년들과 활동가의 모습을 가까운 곳에서 목격한 것을 들 수 있다. 히로시마, 일본의 미션, 한국의 미션, 그리고 세계의 미션을 위해 각자의 몸과 마음을 내어 서로를 생각하는 모습들이 있었다. 자신의 원자 체험으로부터 냉정을 잃지 않고 대담하게 말씀하시는 분과 그것을 함께 듣는 친구들의 자세를 볼 수 있었다. 다음으로, 여러 배경을 갖는 친구들과 함께 평화, 생명에 대해서 생각하고 기도하며 시간을 공유한 은혜를 들 수 있다. 평화를 구하는 친구들이 올해도 모여서 함께 기도 할 수 있어서 기뻤다. 한편, 나는 일상에서 얼마나 [세계]에 마음을 두고 있는가? 이 희망과 그러지 못해서 분함을 가슴에 안고, 나 스스로의 미션을 외면하지 않을 것이다. 마지막으로 맞아주신 성공회 스텝들과, 사랑 많으신 주님께 감사하며 이 글을 씁니다.

「共感できる」者になるために
司祭　越山　哲也

今回のセミナーもたくさんの学びと気づきが与えられました。グループごとの分かち合いでのある参加者の言葉が印象に残っています。それは「とても大事な話を聞かせて頂いたが、正直自分の中に共感出来なかった」と言われたことです。

「共感」という言葉がよく使われますが、人はそんな簡単に「共感」は出来ないと思っています。だからこそ響きのいい言葉面だけの「共感」は好きではありません。共感するためにまず必要なことは、「共感出来ない」という現実を受け入れることです。そしてさらに人の痛みや苦しみに寄り添うためには傷つくことも覚悟しなければならないと思います。日韓聖公会青年セミナーが大切にしていることは、現地に立って、人と出会い、話を伺い、自分自身で感じて考えることだと思います。現地に立つとまずは共感出来ない無力さと、そして初めて知る衝撃的な事実の前に自分自身の無知と無力さを思い知らされます。しかし、それで良かったと思うのです。なぜなら共感できる者になるためには必要な事だからです。セミナーでの皆さんとの出会い、そしてすべてのプログラムを通して与えられた恵みに感謝します。またお会い出来る日を楽しみにしています。

공감할 수 있는]사람이 되기 위하여
司祭　越山　哲也(코시야마 테쯔야 사제)

이번 세미나에서도 많은 배움과 깨달음을 얻을 수 있었습니다. 그룹별 나눔에서 어떤 참가자의 발언이 인상에 남았습니다. 그것은 [매우 중요한 이야기를 들었지만, 솔직히 내 안에서는 공감할 수 없었다]라고 말한 부분입니다.

[공감]이라는 말이 자주 사용됩니다만, 사람은 그렇게 간단히 [공감]할 수 없다고 생각합니다. 그렇기 때문에, 좋게 들리는 말 만의 [공감]은 좋아하지 않습니다. 공감하기 위해서 우선 필요한 것은, [공감 할 수 없다] 라는 현실을 받아들이는 것입니다. 그리고 더욱 타인의 고민과 고통에 가까이 가기 위해서는 상처받는 것도 각오해야만 한다고 생각합니다. 한일성공회 청년세미나가 중요하게 생각하는 것은, 현지에 서서, 사람들과 만나고, 이야기를 듣고, 자기 스스로 느끼고 생각하는 것입니다. 현지에 서게되면 우선 공감할 수 없다는 무력함과, 처음 접하는 충격적인 사실 앞에서 자기자신의 무지와 무력함을 깨닫게 됩니다. 그러나, 그 깨달음에 납득 할 수 밖에 없습니다. 왜냐하면 공감할 수 있는 사람이 되기 위해서 필요한 것이기 때문입니다. 세미나에서의 많은 사람들과의 만남, 그리고 모든 프로그램을 통해서 주어진 은혜에 감사합니다. 또 다시 만날 날을 기대하겠습니다.

帰ってきてからのこと
司祭　丁胤植

日韓青年セミナーから帰ってきて迎えた最初の主日礼拝は丁度8月15日でしたので、広島と大久野島でのことを語ることができました。そしてその週にはテレビで大久野島の毒ガスの加害と被害の歴史について放送されたようなので、それをご覧になった信徒の皆さんはインパクト強く、その理解は高まっていると思います。その流れで、私は今現在、関わっている幼稚園の子どもたちにも機会があったらその話をいつかは伝えたいと考えているところです。但し、4〜6歳の子どもにその平和の大切さをどう伝えるかということは非常に難しく、今の私の一つの課題です。マタイ5章のイエス様の山上の説教から、「平和を愛する人は神様の子どもである」という形で、大久野島の800匹のウサギたちのことも少し触れながら、人を苦しめる戦争・核兵器・毒ガス爆弾の恐ろしさなどを上手く紹介してみたいと思います。勿論、小さな瞳に移った子どもたちの心からの真の平和を学ぶことも忘れてはならないと思いました。
（追記：幼稚園の子どもたちに伝えることができました。感謝。）

돌아와서 있었던 일
司祭　丁胤植(정윤식 사제)

한일 청년세미나에서 돌아와 맞이한 첫 주일예배는 딱 8월 15일이었기에, 히로시마와 오쿠노섬에서의 일들을 신자분들께 말하기 용이했습니다. 그리고 그 주간에 티비에서 오쿠노섬 독

가스의 가해와 피해 역사에 대해서 방송되었기에, 그것을 본 신자분들에게 있어서는 임팩트 강한 이야기로써, 그 부분에 대한 이해도가 높았을 것입니다.

교회에서 뿐만 아니라 내친김에, 현재 관여하고 있는 유치원의 아이들에게도 소개 할 수 있는 기회가 있으면 좋겠다고 생각하고 있습니다. 단, 4-6세 아이들에게 평화의 중요성을 어떻게 전할 수 있을까 하는 것은 매우 어려운 일로, 지금의 저에게는 과제 중의 하나입니다.

마태복음 5장의 예수님의 산상설교로부터 [평화를 사랑하는 사람은 하느님의 자녀다]라는 형태로, 오쿠노섬의 약800마리의 토끼들 얘기도 하면서, 사람에게 고통을 주는 전쟁, 핵병기, 독가스 폭탄의 무서움 등을 잘 소개하고 싶습니다.

물론, 작은 눈동자에 비친 아이들의 마음으로부터 진정한 평화를 배우는 것도 잊어서는 안된다고 생각합니다.

(후기 : 유치원 아이들에게 전할 수 있었습니다. 감사.)

誰かを記憶するのは、その人の生を私たちの中で復活させること

司祭　千松清美

青年委員会の委員として、４度目の日韓青年セミナーの参加になりました。今回はとくに大韓聖公会参加者イ・ヘソンさんの発題から、被ばく2世であることを韓国で初めて明らかにした人、反核平和人権運動家キム・ヒョンリュル氏（2005年死亡）の「生は続けなければならない。」という言葉が心に残りました。またこのことをキリスト教の考えに置き換えて、苦痛と危難が身に迫られて、社会権力のために無視されて亡くなった韓国・朝鮮人被ばく者の方々を記憶することで、神様によって私たちの中に彼らが生かされていき、記憶と共に彼らの生とつながりながら私たちが生きるとき、イエスさまの復活が現されていくことだと教えられました。私は、逝去者を記念することにより、その方の死と復活を結びつける信仰は持っても、逝去の方を記憶し、その方の生を大切にして生きることで、私たちの中にその方を復活させることだとは考えませんでした。死と復活、そして記憶と生が結ばれて、イエス様の憐れみと愛が私たちのなかに満たされるのだと思います。このセミナーにより多くの大切なことを教えられ、感謝いたします。

누군가를 기억한다는 것은, 그 사람의 생을 우리 안에서 부활시키는 것

司祭　千松清美(센마쯔 키요미 사제)

청년위원회의 위원으로써, 4번째 한일청년세미나에 참가하게 되었습니다. 이번엔 특히 대한성공회 참가자 이혜선 씨의 발제에서, 피폭2세라는 것을 한국에서 처음으로 밝힌 사람, 반핵 평화 인권 운동가 김현율 씨(2005년 사망)의 [삶은 계속 되어야 한다.] 라는 말이 마음에 남았습니다. 또한 그것을 기독교적인 사고로 바꾸어, 사회권력에 의해 고통과 재난을 등에 지워진 채 무시당하고 돌아가신 한국, 조선인 피폭자 분들을 기억하는 것으로, 하느님에 의해 우리들 안

에 그들이 살아가며, 기억함으로 우리가 그들의 생명과 이어져 살아갈 때, 예수님의 부활이 실현되는 것이라는 가르침을 받았습니다. 저는 돌아가신 분들을 기념하는 것으로 그분의 죽음과 부활을 하나로 묶는것이라는 신앙은 갖고있었지만, 서거자를 기억하고 그분의 삶을 중요히 여기며 살아가는 것으로 우리들 안에 그분을 부활시키는 것이라고는 생각하지 않았습니다. 죽음과 부활, 그리고 기억과 삶이 하나로 묶여, 예수님의 긍휼과 사랑이 우리들 안에 충만하게 된다고 생각합니다. 이 세미나를 통해서 중요한 많은 것들을 배울 수 있었던 점, 감사합니다.

セシリア　新田紗世

部分参加だったため、最初のプログラムは両国青年からの発題でした。中でも『誰のために何を祈るのか』というキーワードが強く印象に残り、その後のプログラムでは終始その言葉が自分への問いとなっていました。　プログラムが終わった今、文字にして伝えられるほど言葉化できてはいませんが、今まで自分の中にうやむやになっていた部分があった事に気付いたような気がしました。　感想をシェアする時間に、世界の情勢を『荒波』と表現された方がいらっしゃいましたが、本当にその通りだと思います。　そんな日々の中で、日韓セミナーは、言葉が違っていても、共に祈ることができる仲間との出会いの場になっている、大切なプログラムだと改めて知ることができました。このような機会を与え続けて下さる神様に心から感謝して、、、

セシリア　新田紗世(청년위원 세실리아 니타 사요)

부분참가였기 때문에, 처음 참가한 프로그램은 양국 청년들의 발제 부터 였습니다. 그 안에서도 [누구를 위해서 무엇을 기도하는가] 라는 키워드가 강하게 인상에 남았고, 그 후의 프로그램에서는 계속 그 말이 떠나지 않고 스스로에게의 질문이 되었습니다. 프로그램이 끝난 지금, 문자로 바꾸어 전할 수 있을 정도로 언어가 정리되지 않았습니다만, 지금까지의 내 안에 흐지부지 되어 있던 것을 깨달았습니다. 감상을 나누는 시간에 세계정세를 [거센 파도]로 표현한 분이 계셨습니다만, 정말 맞는 말이라고 생각합니다. 그런 날 들 가운데, 한일세미나는, 언어가 달라도, 함께 기도할 수 있는 동료와의 만남의 장이 되어있는, 중요한 프로그램이라고 다시금 알 수 있었습니다.

이러한 기회를 끊이지 않고 계속 이어가게 해 주시는 하느님께 마음으로부터 감사하며....

分かち合いの大切さ

聖職候補生　アンデレ　松山健作

下見でひとり広島に着いた時、広島で日韓の青年が何を互いに分かち合えるのか、と悩みました。それは原爆投下という出来事についての両国の認識が異なるからです。インターネットの情報を頼りに強制連行の歴史、朝鮮戦争時の広島など韓国に関連するテーマを探しました。

結局行き着いたのは、在日韓国人被曝者の李鐘根先生のお話を聞くことと、大久野島に訪れて、毒ガス製造という加害の歴史と原爆の被害の歴史とを合わせて考えるというプログラムでした。内容は極めて重いものになるだろうと思いました。もしかすると青年同士の葛藤を生み出してしまいかねないとも危惧しました。

しかしながら、最近の青年は、穏やかで謙虚に互いの意見を受け入れる姿勢で、なんだかホッとする一面、もう少し意見がぶつかり合うという部分もあっていいのかなと、自身が青年参加者だった頃のことを思い出したりしていました。私がセミナーで最も重要だと考えているのは、分かち合いの時間です。ここでしっかりと自分の意見を出し切ることが、後の関係にも影響してくると思っています。

今回は4回の分かち合いを行いました。決してたくさんの時間を提供できたとは思いません。しかし、限られた時間の中でお互いの話を聞くことによって、私たちの意見は違いがあることを知ります。その違いを大切にすることが日韓関係において、宝になるのではないかと思ったりしながら、今回のセミナーを過ごしました。

나눔의 중요성

アンデレ　松山健作(성직후보생 안드레아 마쯔야마 켄사쿠)

사전답사로 히로시마에 도착했을때, 히로시마에서 한일 청년이 서로가 무엇을 나눌 수 있을지 고민했습니다. 그것은 원폭투하라는 사건에 대한 양국의 인식이 다르기 때문이었습니다. 인터넷 정보를 의지하며 강제연행의 역사, 한국전쟁 때의 히로시마 등 한국에 관련된 테마를 찾았습니다. 결국 관심이 멈추어서게 된 것은 재일 한국인 피폭자인 이종근 선생님의 이야기를 듣는 것과 오쿠노 섬을 방문해서 독가스 제조라는 가해의 역사와 원폭에 의한 피해의 역사를 함께 생각하는 프로그램이었습니다. 극단적으로 무거운 내용이 될 것이라고 생각했습니다. 어쩌면 청년들끼리의 갈등을 불러 일으킬 수 있다는 기우도 들었습니다. 그러나, 최근의 청년들은 부드럽고 겸허하게 서로의 의견을 받아들이는 자세로, 대체로 따듯한 일면이었는데, 조금 더 의견이 부딪치는 부분이 있는게 좋지 않을까라고 생각할 정도로, 저 자신이 청년참가자였을 때가 떠올랐습니다. 제가 세미나에서 가장 중요하게 생각하는 것은, 나눔시간입니다. 거기에서 확실히 자신의 의견을 주장하는 것이, 나중의 관계에도 영향을 미친다고 생각합니다. 이번엔 4번의 나눔시간을 갖었습니다. 결코 충분히 많은 시간을 제공했다고는 생각하지 않습니다. 그러나 제한된 시간 안에서 서로의 이야기를 듣는것에 의해, 우리들의 의견에 다름이 있다는 것을 알게됩니다. 그 다름을 중요하게 여기는 것이 한일관계에 있어서 보물이 되지 않을까 생각하며, 이번 세미나 기간을 지냈습니다.

韓国側参加者感想文

広島を振り返って

オム ギムン　(Eom Gi Mun)

広島の初日は混乱そのものだった。タクシーの運転手さんは私を名前も知らないカトリック教会に降ろし、宿舎まで地図を探して行くしかなかった。

二日目、「ウサギの島」として有名な大久野島に訪問した時、初めて我々の目的を重く実感した。太平洋戦争当時、日本帝国軍が生物化学兵器の実験や製造をしていたところだった大久野島。今はウサギがのんびりと歩きえさをもらっている風景がみられるが、そこには醜悪な戦争の裏の姿が隠されていた。島のあちこちに残っている生物化学兵器貯蔵所と防空壕、発電所施設跡などは戦争という名分の下で消え去った数多くの生命の叫びが残っているように思えた。

三日目の平和行進は今回の広島訪問の絶頂であったと言える。カトリック教会と共に行った今回の行事で、みんなが一つの声で”ハレルヤ、アーメン!”と叫ぶ時に、すでに天国はそこにあった。宗派を越えて、韓国人と日本人という国籍を越えて平和を叫ぶみんなに聖霊の感化が共にあったと思う。

最終日のプレゼントの交換は、来年を約束する基礎となった。個人の境界を崩し、一つの心、一つの志になったという点で今回のセミナー当初の目的を十分に達成したと思う。

何よりも暑く湿度の高い日本の天気の中、事故なく無事終了することができたことについて神様に感謝している。そして国籍を、宗教を越えて平和というキリストの究極的な教えを広めるために流した汗は、神様を喜ばせるに至らせることができたのではないかと私は考える。

予定通りなら、来年のセミナーは韓国側で行うことになっている。その時には参加者ではなくスタッフとして、参加者のために力の限り尽くしたい。

히로시마를 돌아보며

엄기문 베드로 **(Eom Gi Mun)**

히로시마의 첫날은 혼란 그 자체였다. 택시 기사님은 나를 이름 모를 천주교회에 내려주었고 숙소까지 지도를 더듬어 갈 수밖에 없었다.

둘째 날, ‘토끼섬’으로 더 유명한 오오쿠노지마를 방문했을 때야 비로소 우리의 방문 목적이 무겁게 다가오기 시작했다. 태평양 전쟁 당시 일본제국군이 생화학 무기를 실험 및 제조하던 곳이었던 오오쿠노지마. 지금은 토끼들이 한가롭게 거닐며 관광객들에게서 먹이를 얻어먹는 풍경이지만, 그 일면에는 추악한 전쟁의 민낯이 숨겨져 있었다. 섬 곳곳에 남아있는 생화학 무기 저장소와 방공호, 발전 시설 등은 전쟁이라는 명분 아래에서 스러져간 수많은 생명의 절규를 품고 있는 듯하였다.

셋째 날의 평화 행진은 이번 히로시마 방문의 절정이었다고 할 수 있다. 천주교회와 함께 한 이번 행사에서 모두가 한목소리로 ‘알렐루야, 아멘!’을

외치는 순간, 이미 천국은 그곳에 있었다. 종파를 초월하여, 한국인과 일본인이라는 국적을 초월하여 평화를 외치는 각자 모두에게 성령의 감화 하심이 함께하였으리라.
마지막 날의 선물 교환은 내년을 다짐하는 밑거름이 될 만하였다. 개개인의 경계를 허물고 한 마음, 한 뜻이 되었다는 점에서 이번 행사는 이미 소기의 성과를 충분히 달성하고도 남았다고 할 수 있다.
무엇보다, 덥고 습한 일본의 날씨 속에서도 단 한 건의 사고 없이 마무리할 수 있었던 점에 하느님께 감사드린다. 그리고 국적을 넘어, 종교를 넘어 평화라는 그리스도의 궁극적인 가르침을 위해 흘린 땀방울이 그분께서 보시기에 참 좋았으리라고 생각한다.
예정대로라면 내년 행사는 한국 측에서 치르게 된다. 그때에는 참가자가 아닌 스태프로서 참가자들을 위해 봉사하고 싶다. 부족하지만 힘이 닿는 곳까지 보태고자 한다.

私には遠くて近い日本

キム サン (Kim San)

日本、私には遠くて近い国だった。なぜなら、母方に日本人の家族がいるからだ。7人目の叔母が日本人である叔父と出会い結婚し、その家族には日本の国籍を持つ従妹も二人いる。さらに、幼い頃から母親の実家に行くと、祖父はいつも日本のニュースを見ていたし、おばあさんは叔母らと日本語で話をしていた。祖母がいつもくれたおやつは子どもなら誰でも好きなおやつであり、すべて日本のお菓子や飴だった。他にも私が住んでいた所は釜山ナンポドン（南浦洞）と近く、父もよく日本の物を買ってきて私に与えたりした。そんなに私にとって近い国だったのに一度も行ったことがない国だった。

そして今回、日本聖公会との交流セミナーのために生まれて初めて日本に行くことになった。すべてが良かった。食べ物、人、話し合いや訪れた場所まで、私の期待以上だった。そして韓国の多くの人々が持っている偏見を、このセミナーで出会った日本の兄弟姉妹が一つ一つ消してくれた。私たちは短い期間の間に本当に多くのことを話し合った。私は思う。全部とまではいかないが、互いの痛みを話し、食べて飲みながら、私たちは十分に神様の中で一つとなったことを感じたのだと。日本聖公会の兄弟姉妹の皆さんにに一言伝えたい。本当に忘れられない思い出を作ってくれてありがとう。愛しています。

나에겐 멀고도 가까운 일본

김산 엘리사 **(Kim San)**

일본. 나에게는 멀고도 가까운 나라였다. 왜냐하면 외가 쪽에 일본인 가족이 있기 때문이다. 많고 많은 이모들 중에 7째 이모가 일본인이신 이모부를 만나 결혼을 하셨고, 일본 국적을 가지고 있는 여동생이 2명이나 있다. 게다가 어릴 때부터 외가에 가면 할아버지는 항상 일본뉴스를 보고 계셨고 할머니는 이모들과 일본어로 대화를 하셨다. 할머니가 항상 주시던 간식. 아이들이라면 어느 누구나 좋아할 간식들도 전부 일본

에서 들어온 과자와 사탕들이었다. 그 외에도 내가 살던 곳은 남포동과 가까워서 아버지께서도 자주 일본 물건들을 사와서 내게 주시곤 했다. 그렇게나 나에게 있어서 가까운 나라였는데 한 번도 가보지는 못했던 나라였다. 그러다 이번기회에 일본 성공회와의 교류 세미나를 통해서 생애 처음으로 일본을 가게 되었다. 모든 것이 좋았다. 음식, 사람, 대화, 장소까지 내가 생각하고 기대했었던 그 이상이었다. 그리고 우리나라 사람들 대부분이 가지고 있는 편견을 만났던 일본교구의 형제자매 분들께서 하나하나 내 머릿속에서 지워 주셨다. 우리는 짧은 그 기간 동안 정말 많은 얘기를 나누었고 늦게까지 서로의 얘기를 주고받았다. 나는 생각한다. 전부까지는 아니더라도 서로의 아픔을 얘기하고 먹고 마시며 우리는 충분히 하나님 안에서 하나 됨을 느꼈을 거라고. 일본교구 형제자매님들께 한 말씀 드리고 싶다. 정말 잊지 못할 추억을 만들어 주셔서 감사합니다. 사랑합니다.

日韓聖公会青年セミナー感想

キム サンボム (Kim Sang Bum)

今回の旅は私に様々な経験と学びを与えてくれました。はじめに、これまで歴史について本当に関心がなく、私にとってさほど重要なものではないと思っていました。しかし、広島にある平和公園にある原爆ドームを見た瞬間、本当に歴史について詳しく調べてみたくなりました。また戦争がどれほど危険で、戦争が終わった時の被害がものすごいということをほんの少しでも知ることができました。

そして日本の友達と一緒に話し合ったり過ごすことができてよかったです。本当にお疲れ様でした。また会って話すことができたら嬉しいです！！！

한일성공회청년세미나 감상

김상범 니콜라**(Kim Sang Bum)**

이번 여행은 저에게 여러가지 경험과 배움을 준 것 같습니다. 첫번째로 그동안 역사에 대해서 정말 관심이 없었고 중요하지 않다고 생각해 왔습니다. 하지만 히로시마에 있는 평화 공원에 있는 원폭돔을 봤을 때 정말 그 때의 역사에 대해서 자세히 알아보고 싶어 졌습니다. 또 전쟁이 얼마나 위험하고, 전쟁이 끝났을 때의 피해가 엄청나다는 것을 알게 된 것 같습니다. 두번째로 일본 친구들과 함께 이야기하고 놀 수 있어서 좋았습니다. 마지막으로 모두 수고 많으셨습니다. 그리고 다음에 또 만나서 이야기할 수 있었으면 좋겠습니다!!!

日韓聖公会青年セミナー感想

キム サンフン (Kim Sang Hun)

私は日韓青年セミナーに行く前は心配でたまらなかった。一つ目に、日本という国と韓国という国は歴史に関してお互いに複雑な関係であり、日韓セミナーに行って、核無力、差別を越えて生命平和共生の道というテーマを持って、まともな話しができるのか、この主題で下手をすればお互い傷だけを残すことになるのではないか？と思っていた。そして二つ目に、私が様々な面でほかの人たちより力不足な部分があり、日本語があまりできないという点と準備時間がとても短かったという点、そして準備不足のために礼儀のない人だと思われてしまうのではないかと、心の負担となっていた。さらに日本人は表と裏が違うという話を聞いて恐れも抱いていた。しかしながら、学べるものがたくさんあるのではないかと考えて日韓青年セミナーに行くことにした。

日韓青年セミナーでは多くのことを学んだ。参加者の皆さんのいつもノートを手にして筆記する習慣、道にごみが落ちていたら拾ってごみ箱に捨てる習慣など…。そして私が一度質問を謝り無礼を働いてしまった。私の考えの整理をしないまま質問の受け手の立場を配慮をせず質問をしてしまったため、その場の雰囲気が少し気不味くなりそうなことがあった。そんなことがあった時、私の言葉を整理してくださったデヨプさんと悩みを聞いてくれたギムンさんとゴンホさん、そして私が謝る機会を作ってくれたギムンさんに先にお礼を言いたい。そして謝りを受けてくれた希さんにも感謝の言葉を伝えたい。この出来事をきっかけに、配慮の姿勢をもって質問するということを学んだと思う。

普通の人々も日本に原子爆弾が落ちたという事実はよく知っているが、原子爆弾の被害者が日本人だけでなく外国人もいて、その中に韓国人がいたことはよく知られておらず、その事実は私にとって大きな衝撃であった。この事実を知らなかった理由として、過去韓国政府も日本政府ときちんと話しをしないまま有耶無耶になっていることが考えられるが、韓国政府がこの問題を国民によく知らせなかったということは、我々が勉強をしていなければ、このことについて一生知らなかったかも知れないと思った。このことに心を痛め、これからもずっと学んでいかなくてはならないと思った。

最後に、残念だった事は私があまりにも緊張して英語と日本語が上手く出来なかったため参加者たちと多く話ができなかったことだ。もし次に参加できる機会があれば、準備をしっかりしてもっとたくさん話せたらと思う。

한일청년세미나감상문

김상훈 요한 (Kim Sang Hun)

나는 한일 캠프를 가기 전에 많은 걱정을 갖고 있었다. 일단 내가 생각하기에 일본이라는 나라와 한국이라는 나라는 역사 이야기만을 봤을 때 서로 복잡한 관계라고 생각 했고, 한일

캠프에 가서 '핵무력, 차별을 넘어 생명 평화 공생의 길'이라는 주제를 갖고 제대로 이야기가 될까, 이건 진짜 까딱 잘못하면 서로에게만 상처를 줄 수 있는 문제 지 않을까? 라고 생각이 들었었다. 그리고 두 번째는 내가 여러 면으로 다른 사람들 보다 스펙으로 부족한 점들, 내가 일본어를 못한다는 점과 준비 시간이 너무 짧았다는 점, 그리고 너무 준비를 못하면 예의가 아니라고 생각을 해 부담스러웠다. 그리고 실제로 일본인들은 겉과 속이 다르다는 이야기를 많이 들어서 무서웠다. 하지만 배울게 많겠지 라는 생각을 갖고 한일 캠프를 가게 되었다.
한일 캠프에서는 많은 것을 배울 수 있었다. 예를 들어 항상 노트를 들고 필기하는 습관 길바닥에 쓰레기가 버려져 있으면 주워서 쓰레기통에 버리는 습관 등.... 말이다. 그리고 내가 한번 질문을 잘못해서 실례가 됐던 일이 있었다. 그때 내가 잘 생각을 정리해서 말하지 않아 모두를 곤란하게 만들었고 질문을 받는 상대방의 입장을 배려하지 않고 질문하는 바람에 분위기가 험악해질 뻔 했던 사고 가 있었다. 그 사건이 있었을 때 저의 말을 정리 해주신 대엽이 형과 고민을 들어주신 기문이 형과 건호 형 그리고 제가 사과할 기회를 만들어 주신 기문이형께 먼저 감사드리고 싶고 사과를 받아주신 노조미 씨께 감사하다는 말을 전하고 싶다. 그리고 이 사건을 겪으면서 서 질문하는 방법과 남을 배려하는 자세를 많이 배우게 됐다.
두 번째는 보통 사람들이 일본에 원자 폭탄이 떨어졌다는 사실은 알지만, 원자폭탄의 피해자가 일본인뿐만이 아니라 여러 외국 사람들이 있었고, 그들 중에 한국인 있다는 점을 잘 모르고 있다는 점과 나도 오늘날까지 잘 모르고 있었다, 라는 사실이 나에게 크지 않은 충격이었다. 그리고 과거 우리나라 정부가 알고 있었음에도 불구하고 제대로 일본 정부와 이야기를 하지 않은 채 흐지부지 넘어간 문제이었기도 하고, 우리나라 정부가 이런 문제를 잘 알리지 않았다는 사실에 우리가 만약에 공부를 하지 않았더라면 이런 일들에 대해서 평생 알지 못했을 수도 있겠구나 라는 생각이 들었다. 그래서 마음이 아프고 공부를 평생 해야겠구나 라는 생각이 들었다.
마지막으로 아쉬웠던 점은 내가 너무 경직 되어 있었던 것 같고, 영어 실력과 일본어가 잘 않되 멤버들과 많이 이야기를 하지 못한 것 같다. 만약 다음에 참가 할 수 있는 기회가 생긴다면 준비를 많이 해서 더욱더 많이 이야기 하고 싶다.

みんなで平和に向かって

イ ヘソン (Lee Hye Sun)

日韓青年セミナーを参加する前から広島や原爆関連については教科書に記載されている程度のことは知っていました。しかし、発題を準備してセミナーに参加し、韓国人被爆被害者問題や被爆2世の問題など知らなかった事実を知り、教科書に無味乾燥に書かれた一行の中に本当にたくさんの話が隠れていることを知ることになりました。

全世界がどんどん右傾化され、戦争の脅威が強まっています。核兵器による葛藤と、再び戦争しようと言いかねないような極右団体と政治家たちの話が連日国際ニュースに流れます。歴史の流れは再び全世界を戦争の渦へと導くようで、そのような流れを防ぐには個々人はとても弱い存在であると感じられます。

しかし、今回の日韓青年セミナーを通じて平和に向けて奮闘する多くの人に会いました。自分が経験した戦争の残酷さを告発する人々、侵略の歴史を消さずに過ちを知らせる人たち、ともに平和に向けての行進に集まった人たち…その出会いの中で、私たちが散らばっている破片ではなく、一塊の共同体であることを悟りました。破片ではない我々は、戦争の渦の中に流れていく世界を再び平和へ導くことができると信じています。

日本語があまり出来なくて多くの方と話すことができなかったことが心残りではありますが、共に平和について分かち合うことが出来てとても良かったです。また会うその日まで、神の平和が両国の青年の上にありますよう祈ります。

다함께 평화로
이혜선 요안나 **(Lee Hye Sun)**

한일 청년 세미나를 참석하기 전까지만 해도 히로시마와 원폭 관련에 대해서는 교과서에 서술되어 있는 정도로만 알고 있었습니다. 그러나 발제를 준비하고, 세미나를 참석하며 한국인 피폭 피해자 문제나 피폭 2세 문제 등 모르던 사실을 알게 되면서, 교과서에 건조하게 적힌 한 줄 속에 정말 많은 이야기가 숨어있다는 것을 알게 되었습니다.
전 세계가 점점 우경화되면서 전쟁의 위협이 강해지고 있습니다. 핵무기로 인한 갈등과, 다시 전쟁하고 싶어하는 듯한 극우단체들과 정치인들의 이야기가 연일 국제 뉴스에 나옵니다. 역사의 흐름은 다시 전 세계를 전쟁의 소용돌이로 이끌어 가는 것만 같고, 그런 흐름을 막기엔 개개인은 너무 약하게만 느껴집니다.
그러나 이번 한일 청년 세미나를 통해 평화를 위해 투쟁하는 많은 사람을 만났습니다. 자신이 겪은 전쟁의 참혹함을 고발하는 사람들, 침략의 역사를 지워버리지 않고 잘못을 알리는 사람들, 함께 평화를 위해 행진하러 모인 사람들… 그 만남 속에서 우리가 흩어져 있는 파편이 아니라 단단하게 엉길 수 있는 하나의 공동체임을 깨닫게 됩니다. 파편이 아닌 우리는 전쟁의 소용돌이 속으로 흘러가는 세계를 다시 평화로 이끌 거라 믿습니다.
언어가 부족해서 많은 분과 대화해보지 못한 것이 아쉬움으로 남지만, 함께 평화에 대해 나눌 수 있어서 참 좋았습니다. 다시 만날 그 순간까지 하느님의 평화가 양국 청년들에게 함께 하기를 빕니다.

広島での短くも長かった出会い

イ ジヨン　(Lee Ji Yong)

原子爆弾を世界に知らしめた広島にセミナーを行くことを知り、日本人の戦争に対する反省と良心、原爆の実情について知りたくて参加を決めました。もちろん、原爆被害に関する様々な文章を読んだり、漫画「はだしのゲン」を読んだりして、どれほど恐ろしいものであったのか少しだけはわかっていましたが、直接的なことについては知らな

いままでした

最初の日に聞いた被爆者である在日同胞の李鍾根おじいさんの話は、原爆の恐ろしさよりも、むしろ被爆者と在日韓国人の切なさを伝えていました。当時、植民地時代の日本人は朝鮮人を2等国民扱いをして差別をしていたと知っていましたが、その差別は勉強したものより酷かったです。朝鮮人というレッテルにより公企業には就職出来なかった事、朝鮮人であることを数十年間隠さねばならなかった在日韓国人としての切ない話、後になって家族たちに自分は被爆者であり、在日朝鮮人であると明らかにした話、すべての物語に涙が出ました。おじいさんの話ではまだ原爆の経験を黙っている方々が多くいらっしゃる為に、戦争の惨事を忘れられ、再び戦争が起きることもあるのではないかとおっしゃっていました。この再び戦争を起こそうという狂気は第2の原爆を生む可能性が高く、それを防ぐために死ぬまで最善を尽くそうとするおじいさんの勇気が本当にすごいものだと思いました。そしておじいさんは質疑応問の中で、日本がアメリカに謝罪をしなければならないという主張については、日本の過ちが大きく、日本はその過ちを明らかにしようともせず、ただ隠し続けるばかりなので、アメリカがわざわざしなくてもいいのではないかとおっしゃっていました。そんな日本政府の過ちや中途半端な反省は現在進行中であり、最近では軍艦島の文化遺産登録のことなど、日本の戦争犯罪の痕跡をまた一つ隠そうとする姿に苦々しさを覚えました。

その翌日に行った大久野島は印象深かったです。現在は奈良の鹿のように多くのウサギがいる平和な島ですが、過去には人を無残に殺した毒ガスや化学兵器を生産した工場があった恐ろしい過去を持っている島でした。この毒ガスを日本では決戦兵器として日中戦争、太平洋戦争に民間に使用をする蛮行を犯しました。戦後、日本政府はこの歴史を隠すために動いていた一方で、この遺跡を守ろうとする人がいるという話を聞いた時には驚きました。この地域住民たちが積極的に保全を主張して、周辺の学生たちと共に署名運動を行いこの島を守っているということでした。普通なら自分が住んでいる地域にある恐ろしいものは、早く撤去をして跡形をなくしただ平和な島にするのも選択肢としてありうる話ですが、当時の痕跡を保存し、平和の重要性を知らせる地域住民たちの努力は本当にありがたいことだと思いました。案内してくださったガイドのおじいさんの努力だけではなく、日本が侵略のために作り出した恐ろしい毒ガス兵器を展示する博物館を通して、住民と地域社会が平和と良心を守ろうとする気持ちが見受けられ、行動を起こすことでそれは実現できるということを知ることができました。

三日目に原爆ドームを通じて原爆の恐ろしさと国家間の暴力で作られた戦争の惨状を目の当たりにしました。午後には原爆公園で祈りを捧げた後、カトリックの方たちと一緒に行進しました。国境、宗派を越えたキリスト教の努力の必要性を感じ、神の国を伝える福音とは、平和を世の中に知らせ皆で手と手を繋ぐことであると感じました。

最後の日、日本の青年たちと一緒に花火を打ち上げました。異なる国の青年同士が火薬で争いを作るのではなく、花火という火薬で楽しい思い出をたくさん作ることができ

ればいいなと考えました。神の国の平和実現に向けて努力できるように祈ります。

히로시마의 짧았었지만 길었던 만남

이지용 패트릭 **(Lee Ji Yong)**

원자폭탄이 세상에 드러난 히로시마로 세미나를 가게 된다는 소식을 듣고는 과연 일본인들의 전쟁에 대한 반성과 양심, 실제 원폭의 실상에 대해서 궁금하였습니다. 물론 원폭 피해에 관한 여러 가지 글을 읽고, 만화 '맨발의 겐'을 읽어서 어느 정도 무서운 실상은 알고 있었지만, 직접적인 이야기에 대해서는 아직 모르는 일이었습니다.

첫 번째 날 원폭 피해를 입었던 재일교포 이종근 할아버지의 이야기는 그 현장에 대한 무서움보다는 피폭자와 재일교포의 안타까운 사연을 들었습니다. 그 당시 식민지 시절 일본인들은 조선인들을 2등 국민 취급하였던 행위는 공부했었을 때보다 차별이 심했습니다. 공기업에는 조선인이라는 낙인 때문에 취업을 할 수 없었고 할아버지께서 재일조선인이라는 것을 수십 년 동안 숨기고 나중에서야 가족들에게 자신이 원폭에 피폭 당했고, 재일조선인이라고 밝혔을 때는 눈물이 났습니다. 할아버지 말씀으로는 아직도 원폭의 피해를 받고도 침묵하신 분들이 많이 계시기 때문에, 전쟁의 참사를 쉽게 잊을 수 있고, 전쟁을 다시 일으킬 수 있기 쉽다고 합니다. 다시 전쟁을 일으키려는 이 광기는 결국 제2 원폭을 낳을 수 있기 때문에 죽기 전까지 최선을 다해 노력하는 할아버지의 용기가 정말 대단하다고 느껴졌습니다. 그리고 할아버지의 질문 답변 중에 일본은 원폭투하에 대한 사죄를 받아야 하는가?에 대해서는 일본의 잘못이 크고, 밝히려고 하지 않고 숨기려고만 함으로 미국이 굳이 하지 않아도 된다고 하셨습니다. 이러한 일본 정부의 잘못과 어설픈 반성이 현재 진행형인 데다, 최근에 군함도 문화유산 등재사건으로 일어난 일본의 전쟁 때 범죄 흔적을 하나라도 더 가리려고 하는 모습에 대해서 씁쓸하게 더 느껴졌습니다.

이러한 (삭제) 씁쓸함을 뒤로 그 다음 날 오쿠노시마로 가보았을 때, 다른 장소보다 더 인상 깊었습니다. 겉보기에는 나라의 사슴처럼 수많은 토끼가 가득한 평화로운 섬이지만, 과거에는 사람들을 무참히 죽이는 독가스와 화학무기를 생산했던 공장이 자리 잡았던 무서운 과거를 가지고 있었습니다. 이 독가스를 일본에서는 결전 병기로 썼을 뿐만 아니라 중일전쟁, 태평양 전쟁에 민간에게 투척한 만행을 저질렀습니다. (삭제) 전쟁 이후에 일본 정부는 이 부끄러운 역사를 숨기고 싶어 했지만, 오히려 이 지역 주민들이 적극적으로 보전을 주장하였다고 합니다. 지역 주민들이 주변의 학생들과 함께 서명운동을 하여서, 이 현장을 보존할 수 있었다는 얘기를 들었을 때 많이 놀랐습니다. 보통이면 자기가 살고 있던 지역의 끔찍한 흉물들은 하루빨리 철거를 해, 흔적을 없애서 섬 자체를 그저 평화로운 섬으로 덮을 수 있었겠지만, (삭제) 전쟁 중의 국가의 자국민에 대한 폭력과 다른 나라에 대한 폭력이 드러난 그때의 흔적을 보존하면서 평화의 중요성을 알리려는 지역 주민들의 노력은 정말 고맙다는 생각 뿐이었습니다. 안내하시는 가이드 할아버지의 노력과 독가스 박물관을 통하

여, 다시 한번 평화와 양심이라는 것이 (삭제) 이 곳 주민들과 지역사회와 같은 사람들이 일어나면 지킬 수 있다는 것을 직접 알 수 있게 되었습니다.*(문장 수정 요함)*
셋째 날 원폭 돔을 방문하여 원폭의 무서움과 국가와 국가 간의 폭력이 만들어낸 전쟁의 참상을보고, 오후에 원폭 공원에서 기도를 드린 후 기독교인들과 함께 행진하였습니다. 행진하면서 느낀 것은 국경을 초월한 그리스도교의 노력이 *(노력이 어디에 필요한지 적시해야 할듯함)* 필요하고, (삭제) 하나님의 나라를 전하는 복음이 바로 평화를 세상에 알리고, 서로 함께 손을 잡는 것임을 느꼈습니다. (삭제) 마지막 날 불꽃놀이를 일본 청년들과 함께 즐기면서, 서로 다른 나라 청년들끼리 화약으로 싸우는 게 아니라 화약으로 서로 웃을 수 있게 하였으면 좋겠다는 생각을 많이 가졌습니다. 평화가 오길 바라며 하느님의 나라의 평화를 여기서 실현하길 노력을 할 수 있도록 기도합니다.

不慣れな出会い、暖かい歓待、平和の意味

イ ゴンホ (Lee Keon Ho)

2017年8月3日から7日まで呉と広島で”核、武力、差別を越えて生命、平和、共生の道を”というテーマで、日韓両国の青年たちと共にセミナーに参加しました。そこでの李鍾根講師の講演、大久野島の探訪そして山内正之講師の解説、両国の青年間の発題、広島平和記念館訪問とカトリック教会との合同平和行進、広島被爆の日の平和記念聖餐式に参加、最後にフェアウェルパーティーまで日本と韓国の青年間の交流と、学びの時間を記憶しています。

広島に到着するまで、ときめき半分、期待半分、そして恐怖も少しありました。外国に行くというときめき、ほかの友だちに会えるという期待、そして意思疎通はどうするべきか、不安も抱えていました。それもつかの間。信愛教会に到着してすぐ私が先に日本の青年に声をかけてみると、何も恐れることはないと気づきました。言葉が通じなくても、信頼と愛(信愛)が一緒にあったように自然に対話を続けることができました。

李鍾根講師の講演は私にとって新鮮な衝撃でした。単なる歴史本で読んだ話よりもリアルなものでした。在日韓国人としての内的な葛藤、そして原爆被爆者としての心情などを感じることができました。講演を終えてから一緒に食事を共にして挨拶を交わすなど、両国の青年と親しくなる時間を持つことができました。

二日目は一日中厳しい日程でしたが、興味深く意味のある一日でした。忠海港からフェリーに乗って見た景色は、しばらくの間セミナーのすべての目的を忘れてしまうほどに美しいものでした。大久野島に到着してバスに乗ってたどり着いた場所は資料館でした。そこで山内正之先生の講演と、防毒マスクなど様々な展示物、化学兵器を作るのに使用した物品は化学兵器の残酷さを悟るには十分でした。資料館を出て大久野島を巡回しました。あちこちに残されている化学兵器工場の残骸に山内先生の解説が生命力を吹き込み、話を追体験するような感覚でした。まるで過去の化学兵器工場に入った気分でした。過去と呼ばれる、または歴史教育というものは直接遺跡地にフィールドワークをしてこ

そ、その意味をよりはっきり気づかせてくれることを悟りました。

三日目に広島に行くことになった時には、何か不気味な感じがしました。なぜなら広島平和記念公園周辺にある川を見ると過去の場面が想像できたからです。心が沈鬱し、悲しかったです。戦争の残酷さを全身で感じることができました。広島復活教会に移動して、益田遥先生の被爆証言を聞いた後、再び平和記念公園に戻ってカトリック教会との合同平和行進をしました。行進には慣れていましたが、それは新鮮な経験でした。韓国にいる時も社会のための行進に参加したことがありましたが、他教派と他の国籍の人たちと共に平和を叫んだことは今までなかったからです。

四日目、朝早く起きて広島の復活教会に行きました。行く前に呉駅で原爆被爆者の為に黙祷を捧げました。教会で原爆被爆者たちのための聖餐式に参加して、日本の友達（春香さん、野愛さん、祐一郎さん）と一緒にプレゼントを準備するために広島市内を歩き回りました。最後まで私と韓国の友だちを助けてくれた日本の友だち、本当にありがとうございました。教会に戻って来てバーベキュー用の木炭に火を付けることを手伝いながら、一緒にたくさんふざけ合いました。4泊5日という短い期間と言語が異なるにもかかわらずこんなに親しくなることができたのは神様の垣根の中にあったから可能だったのではないかと思います。

Farewell.別れはいつも悲しいです。4泊5日がこんなに一瞬で過ぎるものだと思いませんでした。日韓青年セミナーを通じていろいろなことを学びました。新しい隣人との親交、平和と戦争に対する考え方、歴史を学ぶ方法、相互間の理解と信頼を築く方法、どれも広島に来なかったら学ぶことができなかったものです。神はまるで背中にいる影のようであると思います。見ることはできなけど聞くことはできる存在だと思います。私たちは耳をよく澄まして、周辺に散在するかすかな音を聞く態度を持ってこそ、信頼と歓待、親交を成すことができると思います。自分自身は韓国に戻るのではなく、再び韓国に使わされるという意識を持つようになりました。わが主イエスキリストの名において、アーメン。

낯선 만남, 따뜻한 환대, 평화의 의미

이건호 마르코 **(Lee Keon Ho)**

2017년 8월 3일부터 8월 7일까지 쿠레와 히로시마에서 「핵, 무력, 차별을 넘어 생명, 평화, 공생의 길을」이라는 주제로 한일 양국간의 청년들과 함께 세미나를 갖게 되었습니다. 그것에서 이종근 강사님, 오쿠노 섬 탐방 그리고 야마우찌 마사유키 강사님의 해설, 양국 청년간의 주제 발표, 히로시마 평화 기념관 방문과 천주교 교회와의 합동 평화 행진, 히로시마 피폭서거자 기념성찬식 참석, 마지막으로 페어웰 파티까지 한국과 일본 청년들간의 화합과 배움의 시간으로 기억하고 있습니다.

히로시마에 도착하기 까지 설렘 반 기대 반 그리고 두려움도 조금 가지고 있었습니다. 외국으로 나간다는 설렘, 다른 친구들을 만난다는 기대 그리고 소통은 어떻게 해야 할까하는 두려움도 가지고 있었습니다. 그것도 잠시. 신아이(信愛) 교회에 도착한 순간 제가 먼저 일본 청년에게 말을 걸었고, 두려움은 아무것도 아니다라는 생각을 가졌습니다. 말을 잘 통하지 않더라도 믿음과 사랑(信愛)이 함께 한 듯 하여 자연스럽게 대화를 이어갔습니다. 이종근 강사님의 강연은 저에게 신선한 충격이었습니다. 단순한 역사책에서 읽었던 이야기 보다도 생생했습니다. 재일 한국인으로서의 내적인 갈등 그리고 원폭 피폭자로서의 심정 등을 느낄 수 있었습니다. 강연을 마치고 나서 양국 청년들 간에 같이 식사를 나누고 인사를 나누는 등 친해지는 시간을 가지게 되었습니다.

이틀 날 8/4에는 하루 종일 고된 일정이었지만 흥미진진하고 뜻 깊은 하루였습니다. 타다노우미 항에서 페리를 타며 본 아름다운 풍경은 잠시 모든 목적을 잊게 만들었습니다. 오쿠노 섬에 도착해서 버스를 타고 도착한 곳은 자료관이었습니다. 그곳에서 야마우치 마사유끼 선생님의 강연과 전시되어 있는 것들, 방독면과 제반 물품, 화학무기를 만드는 데 사용한 물품들은 화학무기의 참혹함을 깨닫게 충분했습니다. 자료관을 나서 이제 오쿠노 섬을 순회하기 시작했습니다. 곳곳에 남겨져 있는 화학무기 공장의 잔해들을 봄과 동시에 야마우치 선생님의 해설은 우리가 있던 장소에 생명력을 불어 넣어 눈 앞에 볼 수 있을 정도로 생생하였습니다. 마치 과거의 화학무기 공장에 들어선 기분이었습니다. 과거라고 하는, 혹은 역사 교육은 직접 유적지에 답사를 해야 그 의미를 더 분명히 깨달을 수 있음을 깨달았습니다.

셋째 날 히로시마에 가게 되었을 때에는 무언가 섬뜩한 느낌이 들었습니다. 왜냐하면 히로시마 평화 기념 공원에 주변에 있는 하천을 보자마자 과거의 장면들이 떠올랐기 때문입니다. 마음이 침울했고, 슬펐습니다. 전쟁의 참혹함을 온몸으로 느끼게 되었습니다. 자리를 히로시마 부활교회로 이동해 마스다 하루카 선생님의 피폭 증언을 듣고 난 후, 다시 평화기념 공원으로 돌아가 천구교회와의 합동평화행진을 진행하였습니다. 굉장히 익숙했지만 신선한 경험이었습니다. 한국에 있었을 때도 사회를 위한 행진에 참가했지만, 다른 교파와 다른 국적의 사람들과 한 목소리로 평화를 외쳤기 때문입니다.

아침 일찍 일어나 히로시마 부활교회에 갔습니다. 가기 전에 쿠레역에서 원폭 피폭자들을 위한 묵념을 시행했습니다. 교회에서 원폭 피폭자들을 위한 성찬식에 참가하고 일본 친구들-하루카 씨, 노아 씨, 유이치로 씨-과 함께 선물을 준비하러 히로시마 시내를 돌아 다녔습니다. 마지막까지 나와 한국친구들을 도와준 일본친구들에게 정말로 고마웠습니다. 신아이 교회에 돌아와서는 BBQ를 위해서 불을 피우는 것도 도와주면서 장난도 함께 많이 쳤습니다. 4박 5일이라는 짧은 기간과 언어가 다름에도 불구하고 이렇게 친해질 수 있었던 것은 하느님의 울타리 안에 있었기에 가능했을 것입니다.

Farewell. 이별은 언제나 슬픕니다. 4박 5일이 한순간에 갈 줄을 꿈에도 몰랐습니다. 한일청년세미나를 통해서 여러가지 것들을 배웠습니다. 새로운 이웃과의 친교, 평화와 전쟁에 대한 생각, 역사를 배우는 방법, 상호 간의 이해와 신뢰를 쌓는 방법 등 오지 않았다면 전혀 배우지 못했을 것들입니다. 하느님은 마치 등 뒤에 있는 그림자와 같다 생각합니다. 보지 못하지만 들을 수 있는 존재라 생각합니다. 우리는 우리의 귀를 잘 기울여 주변에 산재하는

희미한 음성을 듣는 태도를 가져야만 신뢰와 환대, 친교를 이루어 낼 수 있으리라 생각됩니다. 제 자신은 떠나는 것이 아니라 다시 한국으로 파송을 나가는 마음가짐을 가지게 되었습니다. 우리 주 예수 그리스도의 이름으로, 아멘.

日韓聖公会青年セミナー感想

モ ジンソク (Mo Jin Seok)

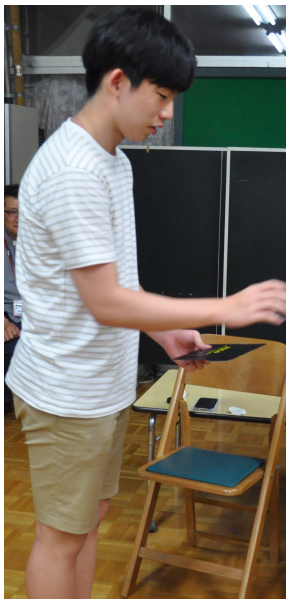
今回の日韓青年のセミナーは、私自身を顧みることができたとてもいい機会であった。私は日本人に悪い印象を抱き、一人でそのイメージを膨らませていた。しかし、今回の日韓青年セミナーに参加して、そのイメージが粉々に崩れた。私のイメージする日本人とはあまりにも違ったからだ。私が見た日本の青年たちはいつも準備された聞く姿勢を持っていたためだ。何も考えず、何の準備なしに行ったことがとても恥ずかしかった。平和をテーマに話し合った時も、一緒に遊ぶ時も、青年たちは私たちの友人で、みんな同じ人間だった。

広島の原子爆弾について、私はただ日本だけの問題であり、「韓国は関係がないのになぜ私が考えを示さなければいけないのか?」といった考えを持っていた。しかし、知れば知るほどこれは私たちが皆一緒に考えていかなければならないということが分かってきた。今すぐに自分の事として考えることはできないが、いつかは私たち一人一人が考えていくべきことなのだろうと思った。

今回の日韓青年セミナーで私が学んだ最初のものは、日本人、韓国人、中国人、黒人、白人だろうがそんなのは関係なく、皆同じ人であるということだ。二つ目は私一人で固定観念を作ってはいけないということ。三つ目は原子爆弾がどれだけ危険なものであるということ。被害者がどれほど多くの痛みを感じたかすべては分からないが、今なら少しは分かるような気がした。原子爆弾と原子炉はこの世の中から消えなければならない。機会があれば、また日韓青年セミナーに参加したい。

한일청년세미나감상문

모진석 솔로몬 (Mo Jin Seok)



이번 한일 청년세미나는 나를 돌아볼 수 있는 아주 좋은 계기였다. 나는 일본 사람들을 너무 안좋게만 바라보고 있었다. '일본 사람들'이라는 틀을 만들고 나 혼자 비방을 한 것이다. 하지만 이번 한일 청년세미나를 다녀오고 그 틀이 산산조각이 났다. 내가 생각한 일본과는 너무 달랐기 때문이다. 내가 본 그들은 항상 들을 자세 준비된 자세를 가지고 있었기 때문이다. 나는 한국에서 아무 생각 없이, 아무 준비 없이 간 것이 너무 부끄러웠다. 평화를 주제로 이야기할 때도 그렇고, 같이 놀 때도 그렇고, 그들은 우리의 친구들이고 다 같은 사람이었다.

히로시마 원자 폭탄에 대하여 이야기 하기 전에 나는 그냥 일본의 일이구나, 우리나라 내 주변에 일이 아닌데 내가 생각을 해야 하나? 같은 생각을 가지고 있었다. 하지만 알면 알아갈수록 이건 우리가 다같이 생각을 해야 하는 것이라는 것을 알게 되었다. 지금 당장이 우리의 일이 아니지만 언젠가는 우리 모두의 일이 되는 것이었던 거다.
이번 한일 청년 세미나에서 내가 배운 첫 번째는 일본사람, 한국사람, 중국사람, 흑인, 백인, 그런 건 없다는 것이다. 모두가 다 같은 사람이라는 것이고, 두 번째는 나 혼자 고정관념을 만들지 말자 라는 것이다. 세 번째는 원자폭탄이 얼마나 위험한 것이고, 그들이 얼마나 많은 아픔을 느꼈는지 다는 모르지만 조금은 알 것 같았다. 원자폭탄과 원자로는 이세상에서 사라져야 한다는 것이다. 다음에도 기회가 된다면 한일청년세미나를 참가하고 싶다.

はじまり

モ ジュンソク (Mo Jun Seok)

特別な理由があって、日本に対して否定的に思っていたわけではありません。一度も行ったことがない日本でしたが、勉強、SNSや、ニュースなどを通じて漠然と日本のことを否定的に思っていました。日本の第二次世界大戦の敗北が当然だと、過ちを犯せばそれにふさわしい罰を受けるのが当然だと思っていました。日本政府が自分たちの被害だけを主張し、加害は認めないように、日本国民も同じように考えているのだと思いながらセミナーに参加しました。

しかし、実際はずいぶん違うものでした。講義を聞く姿とメモをするために忙しく動いている手は真剣で、質問に対して自分の考えを明確に言うその姿に本当に驚きました 。

講義をテーマに初めて話し合ったとき、心から自分たちの話をしてくれて、また誰かの言葉に感動を受けて涙を流す姿みた時、その姿を自分自身も学ばなければならないと思いました。そしてその姿が今でも忘れられません。その姿を見て、私が学ぶべき平和って何だろうか？と心の中から真剣に考えるきっかけになったのではないかと思います。

”永遠の加害者もいなく、永遠な被害者もいない”という平和に関する考え方をするようになった意味のある時間でありました。侵略戦争によって被害を受けたのは当時、朝鮮人だけでなく、日本自国民にも同じ苦痛を与え、終わらない悪夢の時間の中でどれだけ辛かったのかを私が体験することはできませんが、間接体験することはできたのではないかと思います。誤った歴史は正し、痛みの歴史はみんなに教えて再びこのようなことが繰り返されてはならないと思いました。考えるだけの平和でとどまるのではではなく、行動する平和についてすべてが”初めて”という単語でスタートした日韓青年セミナー。すべてが新たな経験であり、変化の時間でした。

시작

모준석 그레고리**(Mo Jun Seok)**
특별한 이유가 있어서 일본에 대하여 부정적인 생각을 가지고 있지는 않았습니다.
단 한 번도 가보지 않았던 일본이지만 공부를 통해서나 메신저나, 뉴스 등을 통해서 자연스럽게 일본에 대한 부정적으로 생각하고 있었습니다. 일본의 패망이 당연하다고 잘못을 저지르면 그에 합당한 벌을 받는 것이 당연하다고 생각했었습니다. 일본 정부가 자기들의 피해만 주장하고 가해는 인정하지 않기 때문에 일본 국민들도 그렇게 생각할 것이라고 생각하며 참여했었습니다.
하지만 도착해서 본 느낌은 많이 달랐습니다. 강의를 듣는 모습과 메모를 하기 위해 바쁘게 움직이는 손은 진지했고 자신의 생각을 뚜렷하게 말하는 그 질문들에는 놀라지 않을 수 없었습니다.
강의를 주제로 처음으로 이야기를 나눌 때 진심으로 자기들의 이야기를 말해주었고 누군가의 말에 감동을 받아 눈물을 흘릴 수 있다는 모습과 자세에 나 자신이 배워야한다고 생각했고 아직도 그 모습을 잊을 수가 없었습니다. 그 모습을 보면서 내가 배워야 할 평화가 무엇일까라는 내 마음속에서부터 진지하게 생각을 해보는 계기였지
않을까 라고.

“영원한 가해자도 없고 영원한 피해자도 없다” 라는 평화에 관한 생각을 하게 된 의미 있던 시간들이었고, 침략전쟁으로 인해 피해를 받은 것은 당시 조선인뿐만이 아니라 일본 자국의 국민들에게도 똑같은 고통을 주었던 끝나지 않는 악몽의 시간들 속에서 얼마나 고통스러웠을지 공감할 수 없었지만 상상만으로 간접체험을 해 보았습니다. 잘못된 역사는 바로잡고 아픔의 역사는 모두에게 알려 다시는 이러한 일들이 반복되어져서는 안 된다고 생각했고 생각만으로 멈추는 것이 아닌 행동하는 평화에 대해서 모든 것이 “처음”이라는 단어로 시작했던 한일 문화 교류 세미나는 모든 것이 새로웠고 경험이었고 변화였던 시간들이었습니다.

広島に行ってきて

パク ヨンチョン (Park Young Chun)

最初に蔚山(ウルサン)教会の司祭から日韓青年セミナーに一度行ってみないかと誘われた時にはただ旅行程度に考えていて、しかも広島には去年12月に個人旅行で行ったことがあったので、新しいこともないと思ってしばらくためらっていたが、大学1年生の夏休みは時間に余裕もあり気分転換としていくのもいいと思って申し込むことにした。

韓国での事前ミーティングで軍艦島の写真展をしている写真作家さんとの平和に関する真剣な討論は少し戸惑った。クリスチャンとして平和について普段関心がないわけではなかったが、私には”事前ミーティングでここまでの内容なら日本でどれほど多くのことを学べるのだろうか”という気がした。そして神道の国としてキリスト教の教勢が弱いと聞いていたので、数少ない日本のクリスチャンに会えるのが嬉しく、学ぶことは嫌

いじゃないので、ときめく心で日本に出発した。

セミナー期間中に平和ドームを見ながら感動し、核兵器の危険性と戦争の残酷さを学びながら、一方ではこのような気もした。”原爆が落ちたことは、多くの人々に大きな悲劇であったが、外国人、特に日帝の植民地支配下にあった朝鮮人たちに一体何の罪があったというのか。祖国を離れ、他郷で生き続けようと広島にきた彼らが他国の戦争でどうしてそこまで苦しみながら死ななければならなかったのか”と。そう思いながら、平和公園内の朝鮮人慰霊碑を見た時、心の中に熱い何かが強烈にこみ上げてきた。

平和公園まで造り記念物もとても象徴性あるように作り上げた日本人たちが、なぜ自分たちが2次世界大戦での加害国であり、アジアを苦痛の中に追い詰めたことを否定するのかについて疑問だった。しかしセミナーで出会った日本のキリスト教徒たちは自分たちの被害の歴史もありながらも、加害の歴史を縮小するという感じはなく、私もキリスト人として韓国が植民支配を受けた経験をもっているが、キリストの中で兄弟姉妹のとして向かい合わせられたのではないか思う。

最後に、世界平和実現のためにクリスチャンであるわたしたちがもっと主の福音と平和を叫べば、神様が真の弟子たちであると認めて誉めてくださるのではないでしょうか？皆さんに神の平和がありますように祈りたい。

히로시마를 다녀와서

박영천 아타나시오 **(Park　Young Chun)**

처음에 울산교회 신부님이 한일청년세미나가 있다고 한번 신청해보라고 하셨을 때에는 그저 여행 정도를 생각하고 있었고, 게다가 히로시마는 작년 12월에 자유여행 형식으로 다녀온 적이 있었기에 그다지 새로울 것 또한 없을 것이라 생각해서 잠시 망설였으나, 대학 1학년의 방학은 남는 게 시간인지라 기분전환 할 겸 갔다오는 것도 괜찮다 싶어 신청하게 되었다.

사전모임에서 군함도를 설명해주시는 사진작가님과 평화에 대한 진지한 토론은 조금은 당황스러웠다. 그리스도인으로서 평화에 대해 평소에 생각이 없는 바는 아니었으나, 나에게는 ‘사전모임에서 이 정도라면 일본에 가서는 얼마나 많은 것을 배울까’ 라는 생각이 들었다. 그러면서 일본은 신토의 나라로서 기독교의 교세가 미약한 국가인데 일본의 그리스도인들을 만날 수 있다는 것이 기뻤고, 배우는 것을 싫어하진 않기에 기쁘고도 설레는 마음으로 일본으로 출발했다.

세미나 기간 중 평화의 돔을 보면서 심금이 울렸고, 핵무기의 위험성과 전쟁의 참혹함을 배웠으나 한편으로는 이러한 생각도 들었다. ‘원폭이 떨어진 것은 많은 사람에게 큰 비극이지만 외국인들 특히 일제의 식민지배하에 있던 조선인들은 도대체 무슨 죄란 말인가. 조국을 등지고 타향에서 먹고 살아 보려고 히로시마로 온 그들이 남들의 전쟁에서 그렇게 고통

스럽게 죽어가야 했을까...' 그러면서 평화 공원 내의 조선인 위령비를 볼 때는 마음속에 뜨거운 무언가가 강렬하게 올라오는 감정을 주체할 수가 없었다.
그러면서 한편으로는 평화공원까지 조성하고 기념물도 아주 상징성 있게 만든 일본인들이 왜 자신들이 2차대전에서의 가해국이며 아시아를 고통 속으로 몰아넣었음을 부정하는지에 대해 의구심이 들기도 하였으나, 세미나에서 본 일본의 그리스도인들은 자신들 피해의 역사도 역사지만 가해의 역사를 축소한다는 느낌은 없었고, 나 또한 그리스도인으로서 한국이 식민지배를 당한 경험이 있으나 그리스도 안에서 형제자매들을 대하듯이 대했다고 생각한다.
마지막으로 줄이면서는 세상의 평화를 실현하기 위해서 그리스도인들인 우리가 좀 더 주님의 복음과 평화를 알린다면 곧 오실 예수님께서 참된 제자들이라고 칭찬해주시지 않으실까? 여러분 모두에게 주님의 평화가 함께 하길 기도하면서 이만 줄인다.

2017年の日韓セミナー感想文

女性宣教センター所属司祭　ハム ユンスク（Ham Yoon Sook）

広島！2017年日韓セミナーが広島で開催されるというニュースを聞き、心が高鳴った。歴史的に一度は訪れて見たいと思っていた場所の一つだったからだ。特に日韓青年セミナーの場所に決まり、内心期待が大きかった。今の時代の青年たちは戦争をどのように考えているのか？両国の青年たちは同じ出来事をどの視点からどう認識しているのか、どんな課題を持って韓国に帰るのか？このような疑問が生まれ、今回のセミナーに参加することができたことを心から感謝している。

私は1995年の日韓聖公会青年セミナー第1期の参加者の一人として、このセミナーに大きな関心を持っている。クリスチャンとして私たちが立っているこの場所で、両国の聖公会の青年たちが果たして今の時代が抱えている痛みをどのような目で見ているか、どのように受け止めているのか？私自身のこの20年「どのように生きてきて、これからどのように生きていくのか。」このような数多くの質問が次から次へと浮かんで来る時間であった。

ありがたいことに、今回のセミナー参加者の青年は私の期待を裏切らなかった。過去にとどまらず、現在から過去を正しく見つめようと努力して孤軍奮闘し悩んでいる姿がとても尊さに満ち溢れているようだった。「ただ笑って済ませることではないんだな！」、「誰かがとても辛い思いをしている。」「それこそ私の兄弟姉妹だ」「私たちがこのまま無知なまま過ごしてはいけないのでは？」など…両国の青年たちの観点が変わるその瞬間！私はその瞬間を愛おしく思えた。本当に喜びを感じている。おそらくイエスが山上の説教の中で弟子たちに教えるときに、主の言葉を分かる人たちがいたとすれば、このような感じだったのではないかなと思う。

日韓セミナーは子供のような心でイエスのもとに近づいていけるものだと考えてい

る。そしておそらく私は、今後8月6日8時15分を忘れない。どこにいても、この日、この時間を覚えて祈るだろう。イエスが私たちを忘れなかったように、私もこの時間を、この痛みの瞬間を忘れないだろう。

2017년 한일세미나 감상문

함윤숙(클라라)사제 여성선교센터 소속

히로시마! 2017년 한일세미나가 히로시마에서 열린다는 소식을 접하고 마음이 두근두근 거렸다. 역사적으로 한 번은 방문해 보고 싶었던 곳 중에 한 곳이기 때문이다. 특히 한일세미나 장소로 선정이 되었다니 내심 기대가 컸다. 이 시대의 젊은 이들은 전쟁을 어떻게 생각하고 있을까? 양국의 젊은 이들은 같은 사건을 어떤 시각에서 바라보고 인식하고 있으며 어떤 과제를 갖고 돌아가게 될까? 이런 궁금증들이 생겼기 때문에 이번 세미나에 참여할 수 있었던 것에 진심으로 감사하고 있다.

나는 1995년 한일청년1기 참가자 중의 한 사람으로서 한일세미나에 지대한 관심을 갖고 있다. 나의 관심은 그리스도인으로서 우리가 서 있는 곳에서 나는, 그리고 양국 성공회 청년들은 과연 이 시대가 앓고 있는 아픔을 어떻게 바라보고 있으며 얼마만큼 아파하고 있을까? 나는 20여년을 넘게 어떻게 살아왔고 앞으로는 어떻게 살아갈 것인가의 수많은 질문들이 꼬리를 잇는 시간이었다.

감사하게도 이번 세미나 참가자 청년들은 나의 기대를 저 버리지 않았다. 과거에 머물지 않았으며 현재에서 과거를 바르게 바라보고자 노력하고 고군분투하는 고민의 모습들이 너무 귀하게 다가왔다. '그냥 웃어넘길 일이 아니구나!', '누군가 많이 아프고 있구나'. '그게 나의 형제자매구나', '우리가 이렇게 무지한채 살면 안되는 것이구나' 등등....양국청년들의 관점이 바뀌는 그 지점! 나는 그 지점을 사랑한다. 나는 그때 정말 희열을 느낀다. 아마도 예수님이 산상수훈에서 제자들에게 가르치실　때 그분의 말을 알아듣는 사람들이 있었다면 이런 느낌　이셨을 것이다.

한일세미나는 어린아이와 같은 마음으로 예수께로 다가가는 것이라고 생각한다. 그리고 아마도 나는 앞으로 8월 6일 8시 15분을 잊지 않을 것이다. 내가 어디에 있든 이날 이 시간을 기억하며 기도할 것이다. 예수께서 우리를 잊지 않으시듯 나도 이제 이 시간을! 이 아픔의 순간을 잊지 못할 것 같다.

国を超えて神様の懐に

ユン デヨプ (Yun Dae Yeop)

暑くて湿度を感じる夏の始まり、私は聖公会新聞の片隅を見て嬉しくなった。ある広告を見たからだった。それはまるで私に"申し込みなさい"とささやくようだった。 それは2017日韓青年セミナーの広告だった。

日韓青年のセミナーは、2015年友人の誘いで初めて参加した。当然の話だが、当時は主題に大きな関心はなく、日本語がほんの少しだけできるから、外国人の友達ができるからという訳で参加した。その後このセミナーは、閉ざされていた私の目と心を開いてくれる、そして一生忘れられない思い出を作ってくれた人生の重要な一片として残ることになった。ただ、参加者たちがいい人だったからということではなく、私の考える範囲を広げてくれて、立場を変えて考えるということを教えてくれた初めての経験であり、国家を乗り越えて神様の中で共に生きて行くことができるという大事な考え方を与えてくれた。

2017年の日韓青年のセミナーは、広島で開かれることとなった。今度は参加者ではなくスタッフとして参加した。それによって事前の集まりや準備過程で、参加者たちのことを少し知ることができ、発題の準備を一緒にし、広島についてはじめよりさらにたくさんの事を知る機会となった。“核、無力、差別を越えて生命、平和、共生の道に”というテーマと”被害者と加害者”というサブテーマで進行され、人を人として見つめ、一緒に共感して心を痛め、誰でも加害と被害の立場が変わる場合があるかも知れないということを考えながら、傲慢さに陥らないようにしようという話を共にした。様々な証言と共にする礼拝を通じてその考えを固めていく中で、平和と共生を追求する姿から2015年に感じたもの”これが神様の中で一つになるというということなのだろうか？と改めて感じた。

いつも参加するたびに新しい恵を下さる神様とすべてのスタッフ、参加者の皆さんに感謝し、最後にこの一言を残します。神様の弟子である韓国と日本のすべてのみなさん、来年にまた会いましょう。

국가를 뛰어넘어 하느님의 품안으로

윤대엽 니니안 **(Yun Dae Yeop)**

덥고 습한 여름의 문턱에서 나는 성공회 신문의 한 구석에서 나온 광고를 보고 흐뭇한 미소를 지었다. 어떤 광고를 보았기 때문이었다. 그 광고는 마치 나에게 “신청해라” 라고 속삭이는듯 하였다. 그 광고는 2017 한일 청년 세미나 였다.

한일청년세미나는 2015년 친구의 권유로 처음 참가 하게 되었다. 당연한 이야기지만 당시에는 주제에 큰 관심없이 일본어를 아주 약간 할 줄 알고, 외국인 친구들이 생긴다는 생각에 참가하였다. 그 후 이 세미나는 닫혀 있던 나의 눈과 마음을 열어주는, 그리고 잊지 못 할 추억을 만들어 주는 인생의 중요한 한 조각으로 남게 되었다. 그냥 사람들이 좋아서 그런 것이 아닌 나의 생각의 폭을 넓혀 주고 입장을 바꾸어 생각하는 것을 알게 해준 첫 경험이었고, 국가를 뛰어 넘어 하느님안에서 함께 살아

갈 수 있다는 소중한 생각을 할 수 있게 해주었기 때문이다.
2017년 한일청년세미나는 히로시마에서 열리게 되었다. 이번에는 참가자가 아닌 절반의 스태프로서 참가하게 되었다. 그로 인해 사전모임과 준비과정에서 참가자들과 좀 더 알게 되었고 발제준비를 함께 하며 히로시마에 대하여 처음보다 더욱 많이 알게 되는 기회가 되었다. “핵, 무력, 차별을 넘어 생명, 평화, 공생의 길로” 라는 주제와 “피해자와 가해자” 라는 부주제로 진행되어 인간을 인간으로서 바라보고 함께 공감하고 아파하며 누구라도 가해와 피해의 입장이 바뀔 수 있다는 것을 생각하며 교만함에 빠지지 않도록 하자는 이야기들을 함께 나누었다. 여러 증언들과 함께하는 예배를 통하여 그 생각을 다져 나갔고, 평화와 공생을 추구하는 모습에서 2015년에 느꼈던 바로 그 생각, ‘이것이 하느님 안에서 하나가 되는 것일까?’ 하는 생각이 들었다.

항상 참가 할 때 마다 새로운 은혜를 주시는 하느님과 모든 스태프, 참가자분들께 감사드리며, 마지막으로 이 한마디를 남깁니다. 항상 깨어 있는 주님의 제자가 되어 한국과 일본에 모든 분들, 내년에 다시 만나요.

5. 閉会礼拝説教

閉会礼拝説教

司祭　李賢銅

「光の子になろう」（ヨハネによる福音書12:31-36）

父と子と聖霊のみ名によって、お話しします。

燈台の役割は、何であるかご存知ですか。燈台は船が港にちゃんと入ってくるように案内する役割をします。特に暗い夜には、燈台の光を見て、船は港に安全に入ってくることができます。ですから燈台守は、燈台の光が消えないように常に管理します。燈台に光が灯っている限り、船は安全に港を探すことができるのです。

今日のテキストの36節で「**光の子となるために、光のあるうちに、光を信じなさい**」と主はおっしゃいます。光を信じなさい。船が燈台の光を信じ、安全に運行するように私たちも主を信じ、主の子とならなければなりません。主を信じ、主の子になるということは、私たちの心に主を迎え、生きていくことです。

器があります。この器に醤油を入れると醤油受けになり、ご飯を入れると茶碗になります。しかし、黄金を入れると、どうなるでしょうか。器に何を入れるかによって、その用途も変わるのです。同様に私たちの心に何を携え、生きるかによって私たちの生き方は、全く異なります。主を携え主の子になるように願います。

主は31節でこのようにおっしゃいます。「**今こそ、この世が裁かれる時**」この世を裁かれる方は、主です。それゆえ裁き主である主の子として、生きることが審判を避けることのできる道なのです。みなさんの心に主を迎え、生きていくように願います。

光と闇は、共存することができません。したがって、闇、すなわちサタンを退ける方法は、主と共にすることです。主と共にする間に、サタンが私たちを害することがないことを肝に銘じ、常にみなさんの心に主を迎え、主の子として生きることを主の名によって願います。

폐회예배 설교

사제 이현동

빛의 자녀가 되자(요한 12:31-36)

+ 성부와 성자와 성령의 이름으로 하나이다.

혹시 등대의 역할이 무엇인지 아시나요? 등대는 배들이 항구로 잘 들어올 수 있도록 안내해주는 역할을 합니다. 특히 어두운 밤에는 등대의 빛을 보고 배들은 안전하게 항구를 찾아 올 수 있게 됩니다. 그래서 등대지기는 등대의 불빛이 꺼지지 않도록 항상 관리합니다. 등대에 불이

켜져 있는 한 배들은 안전하게 항구를 찾아 올 수 있습니다.

오늘 본문 36절 말씀에“빛이 있는 동안에 빛을 믿고 빛의 자녀가 되어라”고 주님이 말씀하셨습니다. 빛을 믿어라. 그리고 빛의 자녀가 되어라. 배들이 등대의 빛을 믿고 안전하게 운행하듯이 우리들도 빛이신 주님을 믿고 주님의 자녀들이 되어야합니다. 주님을 믿고 주님의 자녀가 된다는 것은 우리들의 마음에 주님을 모시고 살아가는 것입니다.

그릇이 있습니다. 이 그릇에 간장을 담으면 간장종지가 되고, 밥을 담으면 밥그릇이 됩니다. 하지만 황금을 담으면 어떻게 될까요? 그릇에 무엇을 담느냐에 따라 그 용도가 바뀌는 법입니다. 마찬가지로 우리들의 마음에 무엇을 품고 살아가느냐에 따라 우리들의 삶은 완전히 달라질 것입니다. 주님을 품고 주님의 자녀들이 되시기를 바랍니다.

주님은 본문 31절에서 이렇게 말씀하십니다. “지금은 이 세상이 심판 받을 때이다.”이 세상을 심판하실 분은 주님이십니다. 그러니 심판장이신 주님의 자녀로 살아가는 것이 심판을 피할 수 있는 길입니다. 여러분들의 마음에 주님을 모시고 살아가시기 바랍니다.

빛과 어둠은 공존할 수 없습니다. 따라서 어둠, 즉 사탄을 물리칠 수 있는 방법은 주님과 함께 하는 것입니다. 주님과 동행하는 동안에는 사탄이 우리들을 해칠 수 없음을 명심하시고 항상 여러분들의 마음에 주님을 모시고 주님의 자녀로 살아가시기를 주님의 이름으로 축원 드립니다.

6.おわりに

青年キャンプ10年（1995～2004）、青年セミナー10年（2005～2018）、そして日韓交流40周年（1984～2024）に向けて
韓国側団長　教務院長　柳時京

1984年に日韓聖公会の公式的な交流が開始され、5回の合同セミナーが実施された。両国間の宣教の理解、両国間の歴史的な葛藤、特に歴史の認識の問題と日本の植民地支配についての謝罪、補償、在日同胞差別問題など、様々なテーマについて聖書的な理解に基づいて議論と実践を進めた。

最初の10年間、成人代表団の宣教協議と交流に基づいて、後の未来の世代の青年たちの出会いのために、1995年に韓国で開催してから毎年両国を行き来しながら実施していくことを約束した。しかし、開催年度の1995年初頭の1月17日、阪神淡路大震災が発生し日本聖公会の教会全体が災害復旧に全力を傾けることになり、辛うじてスタートを準備していた青年宣教は中止の危機に直面した。しかし、両国の日韓協同委員会は、議論を通じて交流の性格をワークキャンプに変えて、両国の青年は、災害現場の神戸と兵庫の村と教会でボランティアと教会の建物の改修などで一緒に汗を流して、非常に熱い最初の交流を始めた。当時のキャンプの参加者はほぼ今も、両国の教会の現場で働いている。2017年現在、韓国のキャンプ参加青年のうち6人が司祭となり、そのうちの半分は日本聖公会で働いている。今回のキャンプにスタッフとして参加したジョンユンシク（丁胤植）、イチャンフィ（李贊熙）、ハムユンスク（咸允淑）司祭は、当時の青年であり、筆者も第1回のキャンプにスタッフとして参加した。日本聖公会もまた、多くの参加者が司祭になり、また信者として教会の中心で奉仕し続けている。
このような端的な例で分かるように、青年期の意味のある出会いと経験は、個人の人生はもちろん、世界を変える原動力になるのではと信じている。福音書が伝えるイエスの運動に召された弟子たちも皆青年であり、イエスの宣教は、そのような意味で青年のための宣教だったと言っても過言ではないだろう。日韓聖公会青年キャンプやセミナーは、そのような点で、私たちの教会の未来を準備してきた貴重な共同の経験であり、資産となり、今後も明らかにそうありつづけるだろう。

早くも来年、青年セミナーと名を変えてから10周年、通算20周年目を迎える。 2011年の東日本大災害の後再び青年交流は中止せざるを得ない年もあり、また2016年度も日本側の要請で一年延期することもあったが、今年で19回目を迎えた。今年広島で開かれたセミナーの期間中、両国の代表者たちは、2018年に韓国で開催される青年セミナーのなかで20周年記念式を共に進めることにした。つまり、過去20年の間に、参加者またはス

タッフとして青年交流とゆかりのある方々を招待して、20年の歴史を振り返り、再び10年後を見据える機会を持つことにした。そのために韓国側は近々、いわゆる「青年キャンプ同窓会（仮称）」を組織する計画だ。

現在、来年の20回目の日韓青年セミナーは大田教区の竝川（ビョンチョン）と鎭川(ジンチョン)地域で開催することを予想しており、3.1独立運動と関連したフィールドワークや歴史的学習を行う予定である。個人的な希望としては、2019年に迎える3.1独立運動100周年を日韓両国聖公会が一緒に準備する出発点になればいいと思う。よって、聖書が語る、新しい歴史の準備期間である荒野40年（1984年〜2024）を、日韓両国聖公会が一緒に議論して準備することを願う。

また、日韓青年宣教交流で必ず記憶するべきことがある。それは1984年に両国代表の最初の交流以来、両国聖公会の交流で守ろうと努力してきた3つの主体と視点の確認である。すなわち、韓国と日本、そして「在日」（在日韓国朝鮮人）という三主体の参加と視点を基に置きながら、青年宣教交流と協働を進めなければならないということである。なぜなら、日本の近代化と植民地支配など日韓の歴史的関係と葛藤の所産である在日韓国朝鮮人の存在を一緒に尊重することで、現在の深化一路の日韓関係の解決の歴史的な糸口が明らかになるからだ。同時にこれは、福音書でわずか一匹の子羊を探しに出かけたイエスの目と心、行動と一致する。

今回の青年の参加者と今後参加する青年が、信仰の中で国家間の葛藤を乗り越えて、正義と平和と生命の新しい歴史を作る主の働き手になることを願う。

청년캠프 **10**년**(1995~2004),** 청년세미나 **10**년**(2005~2018),** 그리고 한일교류 **40**주년**(1984~2024)**을 향해
한국측 단장 교무원장 유시경신부

1984년에 한일 성공회의 공식 교류가 시작되어 5차례의 합동세미나가 실시되었다. 양국간의 선교 이해, 양국간의 역사적 갈등, 특히 역사인식 문제와 일본의 식민지 지배와 사과 및 보상, 재일동포 차별 문제 등 다양한 주제에 대해 성서적 이해에 기반한 논의와 실천을 진행하였다.

첫 10년간 성인 대표자들의 선교 협의와 교류를 가진 것을 바탕으로, 이후 미래세대인 청년들의 만남을 1995년에 한국에서 개최하고 매년 양국을 오가며 실시하기로 약속했다. 그러나 개최 년도인 1995년 벽두인 1월 17일, 한신 코베 대지진 발생으로 일본성공회 전체 교회가 재해 복구에 전력을 기울이게 되었고, 어렵게 탄생을 준비했던 청년 선교교류는 중지 위기에 처했다. 그러나 양국 합일협동위원회는 지혜로운 논의를 통해 교류의 성격을 워크캠프로 바꾸었고, 양국의 청년들은 재해 현장인 코베와 효고의 마을과 교회에서 자원봉사

와 교회건물 보수 공사 등으로 함께 구슬땀을 흘리며 아주 찐하게 첫 교류를 시작하였다. 당시의 캠프 참가자들은 거의 대부분 지금도 양국의 교회 현장에서 일꾼으로 일하고 있다. 2017년 현재 한국 캠프 참가 청년 중 6명이 성직자가 되었고, 그 중 절반은 일본성공회에서 일하고 있다. 이번 캠프에 스탭으로 참가한 정윤식, 이찬희, 함윤숙 사제는 당시 청년이었고, 필자 역시 제1회 캠프에 스탭으로 참여했다. 일본성공회 역시, 많은 참가자들이 사제가 되어, 또 신자로 교회의 중심이 되어 있음을 알 수 있다.

이런 단적인 예를 통해 알 수 있듯이, 청년기의 의미있는 만남과 경험은, 개인의 인생은 물론 세상을 바꾸는 원동력을 제공한다고 믿는다. 복음서가 전하는 예수 운동에 부름받은 제자들도 모두 청년이었고, 예수님의 선교는 그런 의미에서 청년에 의한 선교였다고 해도 과언이 아닐 것이다. 한일성공회 청년 캠프와 세미나는 그런 점에서 우리 교회의 미래를 준비해온 소중한 공동의 경험이자 자산이 되었고, 앞으로도 분명 그럴 것이다.

이제 내년이면 청년 세미나로 바꾸어 실시한지 10주년, 통산 20주년을 맞이한다. 2011년의 동일본 대재해 이후, 또 한번 청년교류는 중지되는 안타까운 시기를 보냈고, 2016년도 역시 일본측의 요청으로 한해 연기하여 올해로 19회째를 맞이한 것이다. 올해 히로시마에서 열린 세미나 기간 중 양국 대표자들은 2018년 한국에서 개최될 청년세미나 중에 20주년 기념식도 함께 진행하기로 하였다. 즉, 지난 20년 동안 참가자로 또는 스탭으로 청년 교류와 관계하신 분들을 초대해서 20년의 역사를 돌아보고 다시 10년을 내다볼 기회를 갖기로 하였다. 이를 위해서 한국측은 가까운 시일 내에 소위 '청년캠프 동창회(가칭)'를 조직할 계획이다.

현재 내년도 20차 한일청년세미나는 대전교구의 병천과 진천 지역에서 개최할 것을 예상하고 있고, 3.1독립운동과 관련한 현장 견학과 역사적 학습을 가질 예정이다. 개인적인 소망으로는, 2019년에 맞이할 3.1독립운동 100주년을 한일 양국 성공회가 함께 준비하는 출발점이 되면 좋을 것이다. 그래서 성서가 말하는 새 역사의 준비기간인 광야 40년(1984~2024)을 한일 양국성공회가 함께 논의하고 준비해가길 바란다.

아울러 한일청년 선교교류에서 반드시 기억할 점이 있다. 그것은 1984년 양국 대표들의 첫 교류 이래 양국 성공회의 교류에서 지키고자 노력해온 3가지 주체와 시점의 확인이다. 즉 한국과 일본 그리고 '재일'(재일한국조선인)이라는 3주체의 참여와 시각을 바탕에 두면서 청년 선교교류와 협동을 진행해야 한다는 점이다. 왜냐하면, 일본의 근대화와 식민지 지배 등 한일간의 역사적 관계와 갈등의 소산인 재일한국조선인의 존재를 함께 존중하는 것에서 현재 심화일로에 있는 한일 관계 해결의 역사적 실마리가 밝혀질 것이기 때문이다. 동시에 이것은 복음서에서 단 한마리 양을 찾아나서신 예수님의 눈길과 마음, 행동과 일치한다.

이번 청년 참가자들과 앞으로 참가할 청년들이 신앙 안에서 국가간의 갈등을 넘어서, 정의와 평화와 생명의 새 역사를 만드는 주님의 일꾼이 되기를 바란다.

編集者：　沖縄教区ウイリアムス神学館　仲宗根遼祐

九州教区大分聖公会　黒阪帆

ソウル教区富川教会　嚴基文

ソウル教区開石教会　尹大燁

京都教区　聖光教会　聖職候補生　松山健作

中部教区　長野聖救主教会　司祭　丁胤植（翻訳）

発行元：日本聖公会青年委員会

発行日：2018年5月14日